

北海道ユニバーシティアライアンス第1回運営会議を開催
半導体拠点形成推進本部を設置
オープンイノベーションハブ「エンレイソウ」の開所式を開催

お知らせ

・医療費通知事業の実施



全学ニュース

- 1 北海道ユニバーシティアライアンス第1回運営会議を開催
- 2 半導体拠点形成推進本部を設置
- 3 令和5年度北海道大学インターンシップを実施
- 4 令和5年度北海道大学鈴木章記念賞-自然科学実験-被表彰者の決定
- 4 令和5年度小島三司奨学金受給者の決定
- 5 キャリアセンター主催 学生が企業とビジネスゲームに挑戦
- 6 ウガンダ・ケニアで日本留学フェアを開催
- 7 オープンイノベーションハブ「エンレイソウ」の開所式を開催
- 8 令和5年度第5回 定例記者会見を開催
- 9 北大フロンティア基金
- 12 第3回鈴木章賞授賞式及び化学反応創成研究拠点(WPI-ICReDD)第6回国際シンポジウムを開催
- 13 海外ファンド検索データベース「Pivot-RP」利用説明会を英語・日本語で開催
- 14 北海道大学北キャンパスシンポジウム～北海道発スタートアップの成長を加速させる取組み～
- 15 No Maps CONFERENCE HOKKAIDO UNIV. ～大学発スタートアップの魅力や実情を話しちゃいます～
- 16 NoMaps2023「WELLNESS」と「STUDENTS」に参加
- 17 官学連携プログラム「カーボンニュートラル夏季短期学習プログラム」を開催
- 18 大学院教育推進機構が科学技術コミュニケーションの特別公開授業を実施
- 19 博士後期課程留学生向け自己PRシート作成ワークショップ“Self Promotion sheet” - Super relevant material for PhD student's job huntingを英語で開催
- 20 「国民との科学・技術対話」支援事業 アカデミックファンタジスタ

部局ニュース

- 21 令和5年度分島亮研究奨励金授与式を挙行政
- 22 総合博物館が博物館実習を実施
- 23 医学研究院医理工学グローバルセンターが国際シンポジウム「The 10th GCB Biomedical Science and Engineering Symposium」を開催
- 24 医学研究院医理工学グローバルセンターが第6回GCB分子生物医学・診断学サマースクール及び第10回GCB医学物理サマースクールを開催
- 25 動物慰霊式を挙行政
- 26 薬学研究院寄附分野「認知症先進予防・解析学分野」感謝状贈呈式及び公開シンポジウムを開催



オープンイノベーションハブ「エンレイソウ」の開所式を開催



No Maps CONFERENCE HOKKAIDO UNIV. ～大学発スタートアップの魅力や実情を話しちゃいます～



北海道ユニバーシティアライアンス第1回運営会議を開催



令和5年度北海道大学インターンシップを実施

- 27 スマート農業教育研究センター開所式を挙行政
- 28 地球環境科学研究院が令和5年度公開講座「気象・気候研究の最前線：観測、理解、未来」を実施
- 29 メディア・コミュニケーション研究院で「北海道大学研究集会2023」を開催
- 30 国際広報メディア・観光学院 韓国・ソウルにて留学生向け説明会を実施
- 31 シンガポール・テマセク・ポリテクニク (Temasek Polytechnic) が国際広報メディア・観光学院を訪問
- 32 低温科学研究所所有の人工雪製作装置等が令和5年度国立科学博物館「重要科学技術史資料(未来技術遺産)」として登録
- 33 北方生物圏フィールド科学センターで「じゃがいも掘り」を開催
- 34 観光学高等研究センターと株式会社ゴールドウインが連携協定を締結
- 35 環境健康科学研究教育センターが令和5年度前期「社会と健康」修了生にディプロマ授与

お知らせ

- 36 医療費通知事業の実施

博士学位記授与 37

レクリエーション

- 44 令和5年度学内教職員フットサル大会の開催

研修

- 45 令和5年度北海道地区国立大学法人等中堅職員研修

表敬訪問 46

人事 47

- 48 新任副学長紹介
- 49 役員等紹介
- 50 新任部局長等紹介
- 50 部局長等(再任)紹介
- 51 新任教授紹介

訃報

- 52 名誉教授 小沼 操 氏



「国民との科学・技術対話」支援事業 アカデミックファンタジスタ



スマート農業教育研究センター開所式を挙行政

表紙：北海道ユニバーシティアライアンス第1回運営会議を開催（関連記事1頁に記載）

裏表紙：キャンパス風景④ 札幌農学校第二農場（北18条西8丁目）

■全学ニュース

北海道ユニバーシティアライアンス第1回運営会議を開催

9月21日（木）、京王プラザホテル札幌において「北海道ユニバーシティアライアンス第1回運営会議」を開催しました。

北海道ユニバーシティアライアンスは、北海道における地域課題の解決に資することを目的として、北海道に所在する大学及び大学を設置する法人（以下「大学等」）が、各大学等の特色及び強みを生かしながら、教育、研究、社会連携、産学連携等に関する情報の収集、共有及び解析並びに具体的

事業の検討及び実施を連携して行うためのプラットフォームとして設置したものです。

記念すべき第1回の運営会議には、構成大学等の関係者及び北海道総合政策部から約50名が出席しました。会議では、室蘭工業大学、小樽商科大学及び本学から、道内における大学間連携に関する現状や実績等について報告があった後、今後の方向性や具体的なプロジェクト等について活発な質疑応答や意見交換が交わされました。

本アライアンスには、現在、道内に所在する国立大学法人8大学等が参画していますが、今後はアライアンスの設置目的に賛同する公私立大学の参画も視野に、北海道の大学全体の研究振興に向けた連携をはじめとして、教育、社会連携、産学連携等の分野を幅広くカバーして連携を深めていく予定です。

（総務企画部総務課）



集合写真（構成大学等の長）



会議の様子

半導体拠点形成推進本部を設置

10月1日（日）、北海道大学に新たな運営組織である半導体拠点形成推進本部（以下、「本部」）を設置しました。

本部は、北海道における半導体産業の振興に向けた動きが急速に進む中、産学官とのハブとして国・地域・産業界の課題解決に貢献するとともに、本学における半導体関連研究・人材育成等の推進を図ります。今後、半導体関連の学外機関と強固な連携体制を築くとともに、各部署が有する半導体の知見を結集することで、人材育成及び研究を推進する拠点となり、我が国にお

ける先端的な半導体産業の発展に向けて貢献していきます。

また、本体制による様々な取組を加速していくために、同日付けで熊本大学の清水聖幸^{きよゆき}副学長を、クロスアポイントメントにより、本学の副学長（半導体関連拠点）として招へいしました。同氏は半導体拠点の先進地にある熊本大学の産学連携担当副学長として、半導体分野の組織立ち上げに中心的な役割を果たしており、本学における半導体分野の教育・研究・社会連携体制の迅速かつ円滑な強化が期待され

ます。

10月4日（水）には記者会見を開催し、寶金清博総長からの挨拶の後、本部長である山口淳二理事・副学長による本部の設置目的・任務等についての説明のほか、半導体に関する研究者を有する5部署（工学研究院、情報科学研究院、理学研究院、電子科学研究所、量子集積エレクトロニクス研究センター）から、特色ある半導体関連研究について紹介を行いました。

（総務企画部企画課）



記者会見にて質疑応答に答える寶金総長（左）と山口理事・副学長（右）



新たに副学長に就任した清水教授



記者会見には本部の関係者のほか、学内5部署の長が出席

令和5年度北海道大学インターンシップを実施

9月4日（月）～9月8日（金）、本学の学生を対象とした、令和5年度北海道大学インターンシップを実施しました。

本インターンシップは、平成22年度から、学生に就業体験の機会を与えることにより、職業意識の育成・向上に寄与し、併せて本学に対する理解を深めることを目的として実施しています。今年度は5名の学生を対象として、実施しました。（別表参照）

初日に、開講式及び全体オリエンテーションを実施し、各部局担当者から

「組織運営」「財務」「学務」「研究推進」「施設」「国際」「社会共創」「図書」の8つのテーマに基づき、本学の概要説明がなされ、その後、受入部局でそれぞれ実習を行いました。

実習のプレゼンにおいては、内容的に表現し、大学側に何が足りないのかについて、学生ならではの意見なども挙がりました。実習生からは、「業務内容について理解を深めるだけでなく、職員の方々と直接交流することなどを通じて、北大職員を志望す

る気持ちが非常に高まるプログラムでした」など、実際に大学職員として働くことのイメージを実感するきっかけとなり、有意義な実習となりました。

今後もインターンシップを通して本学の魅力を発信し、多くの学生に就職候補先の1つとして本学職員を選択してもらえるよう、取り組みを続けていきます。

（総務企画部人事課）



全体オリエンテーションの様子



実習に取り組む様子



実習の成果を発表する様子

受入部局	受入開始日- 終了日 【実働日数】	実習生	
		所属	学年
総務企画部	令和5年9月4日（月）- 令和5年9月8日（金） 【5日】	農学部	2年
財務部		法学部	3年
学務部		教育学部	3年
		文学部	3年
附属図書館		文学部	3年

（別表）

令和5年度北海道大学鈴木章記念賞—自然科学実験— 被表彰者の決定

この度、令和5年度北海道大学鈴木章記念賞—自然科学実験—の第1学期被表彰者4名を決定しました。

本表彰制度は、鈴木 章名誉教授のノーベル化学賞受賞を記念して平成23年に創設されたもので、今回を含め82名の学生に授与されています。賞の内容は、第1年次学生が履修する全学教

育科目「自然科学実験」において、特に優秀な成績を修め、かつ本学の目指す全人教育の理念にふさわしい学生を表彰するものです。被表彰者には、高等教育推進機構長から賞状の授与及び記念品が贈呈されます。

なお、表彰式は第2学期の被表彰者と共に、令和6年3月に行います。

【令和5年度第1学期被表彰者】

24組	佐々木 菜々穂
25組	佐藤 愛莉
29組	佐藤 輝英
29組	佐野 華

(学務部学生支援課)

令和5年度小島三司奨学金受給者の決定

この度、令和5年度小島三司奨学金の受給者が決定しました。

本奨学金は、本学の元職員である故小島三司氏の遺志に基づき、アルツハイマー病を研究する大学院生に、奨学金を給付することにより、研究活動の充実を図り、医学の進歩に寄与するこ

とを目的として創設された、返還義務のない給付型の奨学金です。

今年度は、生命科学院から1名の推薦があり、厳正な審査を行った結果、推薦のあった1名を本奨学金の受給者として決定しました。受給者には、年額60万円が給付されます。

【令和5年度受給者】

生命科学院 木下 祥一

(学務部学生支援課)

キャリアセンター主催 学生が企業とビジネスゲームに挑戦

9月26日（火）・27日（水）の2日間、学生がビジネスゲームに挑戦して、企業・団体から個人の強みについてフィードバックを受ける、キャリアセンター主催の就活ガイダンスを開催しました。

今回のガイダンスのベースとなった「ジョブトライアウト」は株式会社リアライブが運営する就活イベントです。ビジネス目線で自分の特徴などを分析することや、企業等から詳細なフィードバックを受けられる実践的要素が特徴となっており、大学主催のイベントとして実施するのは全国でも初めてです。今回のイベントでは、株式会社ジェイ・ブロードの協力を得て、

多様な進路や学部を有する本学の学生に合わせた内容にアレンジをし、本学OBや多くの企業のご協力のもと実施しました。

ビジネスゲームでは、学生が架空企業のニーズを読み解き、フライングカーの開発・設計やシステム搭載を行いました。学生はレゴブロックや特殊カードでフライングカーのスペック資料を作成し、開発したフライングカーを、toB営業（学生が対企業向け営業役を演じる）、toC営業（学生が対個人向け営業役を演じる）するロールプレイングを行いました。短い時間で、学生はそれぞれの企業のニーズを分析しながら見事に車を完成させ、営業活動

を行い、獲得ポイントを積み重ねて優勝者が決定されました。

その後、学生はゲーム中の様子から見た個々人の強みに対して互いにフィードバックを行い、参加企業の活躍人材についての説明や座談会を行うなど、約4時間半のプログラムに集中して取り組んでいました。学生からは「自分の気付かなかった強みを知ることができた」「企業によって求めている強みは違うことを学ぶことができた」など、多くの気づきが得られたとのコメントがありました。

（キャリアセンター）

講演内容及び登壇者

日時：2023年9月26日（火）・27日（水）13:30～18:00（18:00～19:00は企業・学生の交流会）※同内容2日間実施

会場：クラーク会館（すべて対面で実施）

対象：学年を問わず

主催：北海道大学キャリアセンター

協力・運営：株式会社ジェイ・ブロード、株式会社リアライブ

協力企業・団体：株式会社イトーキ、全日本空輸株式会社（ANA）、セイコーウオッチ株式会社、株式会社ネオジャパン、富士電機株式会社、ヤマチユナイテッドホールディングス、練成会グループ、株式会社エム・シー・アイ、タキヒヨー株式会社、防衛省、三菱重工業株式会社、株式会社三菱UFJ銀行



フライングカーの開発についてグループで打ち合わせをする学生と、評価する企業



レゴブロックでフライングカーを作成する様子



各チームがわずか25分で開発したフライングカー



後半のグループワークでは、カードを活用して互いの強みを分析してフィードバック

ウガンダ・ケニアで日本留学フェアを開催

アフリカルサカオフィスでは、本学が文部科学省から受託している「日本留学海外拠点連携推進事業（サブサハラ・アフリカ）」の一環として、9月12日（火）にウガンダのマケレレ大学、9月15日（金）にケニアの日本国大使館にて、日本留学フェアを開催しました。

両フェアは、コロナ禍後に東アフリカで実施する初の対面式留学フェアで、学部・大学院双方の留学希望者を対象としました。全体説明会と、フェア出展大学及び協力団体ごとの個別相談会の二部構成で行われ、ウガンダでは316名、ケニアでは263名の参加がありました。全体説明会では、本オフィスによる日本留学に関する一般的な説明に加え、各機関・団体のプログラムや奨学金の紹介が行われました。ウガンダでは、農学院修了のマーティン・オンゴル氏（現在、Uganda National Council of Science and TechnologyのExecutive Secretaryとして勤務）が本学の説明を行ったほか、帰国留学生4名が参加

して日本留学を勧めました。ケニアでは、全体説明会后、日本からオンラインで3大学を繋ぐ個別相談会も実施しました。両フェアとも、コロナ禍以前の対面式フェアと同様の出展大学数があり、本学に加え、ウガンダでは、愛媛大学、京都大学、国際大学、東京外国語大学、鳥取大学、立命館アジア太平洋大学の7大学、ケニアでは、秋田大学、宇都宮大学、環太平洋大学、国際大学、東京工業大学、同志社大学ビジネス研究科、長崎大学の8大学が参加者と交流し、各大学のプログラムを紹介しました。また、在ウガンダ及び在ケニア日本国大使館、日本学術振興会（JSPS）ナイロビ研究連絡センター、マケレレ大学、JICAウガンダ事務所及び同ケニア事務所、あしながウガンダ、ケニア日本語教師会、日本国際協力センターケニアJDSプロジェクト事務所、国際交流基金には、それぞれ共催、後援、登壇、個別相談対応のご協力をいただきました。

今回は、学部留学生増加を目指し、

現地中等教育機関への広報を積極的に行ったほか、フェア前後に個別に高校を訪問して日本留学説明会も実施しました。ウガンダのインターナショナルスクールでは150名、ケニアのインターナショナルスクール2校では計100名、同公立校では250名の学生に直接日本留学を広報しました。また、ウガンダではあしながウガンダ心塾を訪問し、同団体の奨学金制度で日本へ学部留学予定の学生に面会しました。本学に加え複数の本邦大学とともに実施したフェアや説明会では、本邦大学関係者と参加者との間で活発なやり取りがなされました。この対面でのインパクトをさらに現地で広げ、留学希望者を実際の出願へと繋げられるよう、本オフィスでは、今後も対面・オンライン双方による活動でフォローアップを続けていきます。

（国際部国際連携課）



ケニアのフェアでの本学の発表の様子



ウガンダのフェアでの個別相談会の様子

オープンイノベーションHub「エンレイソウ」の開所式を開催

9月29日（金）、北海道大学オープンイノベーションHub「エンレイソウ」（以下、「エンレイソウ」）の開所式を開催しました。エンレイソウは、本学の教育研究や福利厚生に活用されてきた旧ファカルティハウス「エンレイソウ」を改修し、10月2日（月）から、本学の研究者、学生等と他大学、自治体、企業等の内外のステークホルダーが自由に意見交換し、社会課題や地域課題の解決に向けた新たなアイデアを生み出す「場」として新たにスタートしました。

エンレイソウは、①大学と地域・社会を繋ぎ産学官金の連携を強化し、②学生と企業・自治体等を結び交流やスタートアップを支援し、③大学の情報

発信、対外的なコミュニケーションの効果的な拠点となることを目的としています。

開所式では、始めに寶金清博総長の挨拶として、改修に携わった関係者への謝辞と、本施設をスタートアップの場や社会連携事業のプラットフォームとして活用いただきたいとの抱負が述べられました。その後、寶金総長、増田隆夫理事・副学長、工学研究院の瀬戸口剛教授によるテープカットが行われました。

式典に続き施設内覧が行われ、1階メインラウンジ及びカフェラウンジの内装及び空間デザインを担当した瀬戸口教授から、道産のタモ材を用いた家具や、窓の外の風景と室内の一体感を意

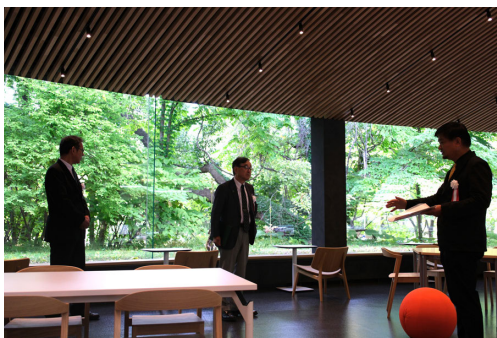
識した天井ルーバーのデザインなどについて説明があり、参加者からの関心を集めていました。また1階プレゼンテーションラウンジは、2026年までの間、本学創基150周年記念事業のコミュニケーション活性化拠点「ENLIGHT」として活用される予定であり、同事業をPRするプロジェクトマッピングの上映が行われました。

参加者からは「非常に素晴らしい雰囲気である」「セミナーやイベントにぜひ使用したい」などの声が聞かれ、オープンイノベーションHub「エンレイソウ」開所式は盛会のうちに終了しました。

（社会共創部社会連携課）



テープカットの様子
（左から、増田理事・副学長、寶金総長、瀬戸口教授）



内覧の様子（1階メインラウンジ）



内覧の様子（1階プレゼンテーションラウンジ）

令和5年度第5回 定例記者会見を開催

9月21日（木）、本学の特色ある教育研究活動や運営状況等を社会に向けて分かりやすく発信することを目的とした「定例記者会見」を開催しました。広報・社会連携本部の南波直樹広報・コミュニケーション部門長の進行のもの

と、水産科学研究院の上野洋路准教授、北極域研究センターの大西富士夫准教授、水産科学院修士課程1年の北村もあな氏、京都大学教育学部3年の永井光洋氏が発表を行いました。北海道教育庁記者クラブ加盟社等から3名

の参加がありました。
発表内容は以下のとおりです。

(社会共創部広報課)

発表事項（発表者）

- ・水産学部附属練習船おしよろ丸が5年ぶりの北極航海から帰港～55日の航海から得られた成果を乗船者が報告～
(水産科学研究院 准教授 上野洋路、北極域研究センター 准教授 大西富士夫、
水産科学院修士課程1年 北村もあな、京都大学教育学部3年 永井光洋)
- ※発表資料掲載URL
<https://www.hokudai.ac.jp/introduction/gov/org/pr/press-conference/R5.html>



定例記者会見の様子



発表の様子



記者からの質問に答える上野准教授



当日の発表者
(左から上野准教授、北村氏、永井氏、大西准教授)

北大フロンティア基金

北大フロンティア基金は、本学の創基130年を機に、教育研究の一層の充実を図り、これまで以上に自主性・自立性を発揮して大学としての使命を果たすため、平成18年10月に創設しました。

奨学金制度の充実や留学生への支援などの学生支援を中心に、研究支援、学部等支援など様々な事業を行っており、期限を付さない、息の長い募金活動をする事としています。

皆様には基金の趣旨にご賛同いただき、ご協力をお願いします。

北大フロンティア基金情報
基金累計額 (8月31日現在)

41,824件 6,673,277,269円

8月のご寄附状況

法人等38社、個人420名の方々から68,540,923円のご寄附を賜りました。

そのご厚志に対しまして感謝を申し上げますとともに、同意をいただいているの方々のご芳名、銘板の掲示について掲載させていただきます。(五十音別・敬称略)

寄附者ご芳名 (法人等)

株式会社イーエス総合研究所、医療法人社団腎誠会、医療法人榎陽会札幌ふしこ内科・透析クリニック、インフォジョイント株式会社、M. C. Fullere1996と仲間達、株式会社ポストメディア、株式会社北川組鉄工所、有限会社牛のいしざき、有限会社札幌庭園工業、建築工学科20期生有志一同、(社)札幌農学同窓会本部・東京支部・関西支部、株式会社三八、医療法人社団信和会石川泌尿器科腎臓内科、医療法人社団谷村医院サンクリニック、株式会社中央不動産リサーチ、株式会社ドーコン、富井建設株式会社、日本エヌ・ユー・エス株式会社、はらだ腎泌尿器クリニック、医療法人社団ふるや内科、医療法人社団豊水会たねいちりウマチクリニック、医療法人社団朋裕会とよた腎泌尿器科クリニック、北大リサーチ&ビジネスパーク推進協議会、株式会社北海道技術コンサルタント、独立行政法人労働者健康安全機構北海道中央労災病院、株式会社丸井足立、医療法人社団萌生舎宮の沢腎泌尿器科クリニック、和弘食品株式会社

寄附者ご芳名 (個人)

合川 正幸	相場慎一郎	青井 良平	青木 俊介	青沼 美隆	青柳 武史	青柳 良隆	青山 寛之
赤平 幸郎	浅木 栄子	東 剛己	渥海 航	阿部 啓子	阿部 慶太	阿部 雅史	阿部 芳久
有村 直子	池田 敦子	池田 梨子	石井 哲夫	石垣 隆弘	石川 洋三	石田 克平	石田 重文
石津 明洋	石山 達雄	石山 祐二	石渡 英夫	市坂 有基	伊藤 昭英	伊藤 和行	伊藤 昂哉
伊藤 大貴	伊藤 貴則	伊藤 雄三	井上 猛	猪股 哲美	猪股 路子	井原 博	今井 晋
今井 久雄	今井 必生	入澤 秀次	岩田 玲	上田 雅敏	上野 貴希	白木 智哲	内山 喬一
采 孟	梅本 由佳	浦木健太郎	蝦名 康彦	江本 永二	縁記 和也	遠藤 公憲	大木 淳之
大崎 智史	大澤 崇宏	大友耕太郎	大原 正範	岡本 佳裕	沖崎 遼	小熊 祐子	小熊 豊
奥村 和久	小田原一史	小野里典明	小原 大和	柏木 明	柏谷 佳洋	片岡 浩	片野 英典
加藤 伸康	加藤 裕貴	金川 眞行	金沢 巧	兼古 学	金田 聡門	金田 亮平	椛島 孝典
河井 康孝	川口 尚	川口 政史	川瀬 紀子	河藤小百合	河瀬 則良	河本 充司	菅野 彰一
菊池 英明	岸本 佳則	衣川 暢子	木村 清延	木村 隆治	木村 祐介	工藤 俊哉	藏田 伸雄
倉林 和重	倉元 祥伍	栗田 幸治	栗原 誠治	鯉沼 潤吉	上月 浩	古梶 正洋	小瀬村貴敏
小瀧 安史	児玉 優子	小林 賢人	小林 次郎	小林 正人	小向 志保	小柳 知彦	齋藤 駿次
齊藤 晋	齋藤 久	齋藤文志郎	境 政人	坂本 大介	左近 祥夫	佐藤 幸子	佐藤正一郎
佐藤 隆博	佐藤 俊則	佐藤 正浩	佐藤 康訓	佐藤 祐麻	澤田 賢一	澤田 及子	三升畑元基
塩見 祐子	重井 真琴	志済 聡子	七戸 俊明	篠原 正英	柴 泰純	柴犬 田中くん	清水 薫子

白土 博樹	白鳥 貴久	白松 邦昭	新宮 康栄	信野祐一郎	菅原 新也	菅原 修孝	杉江 和男
杉田 弘也	杉本 絢子	杉本 聡	鈴木 章彦	鈴木 貴之	須藤 和昌	関 利盛	瀬田石智敏
瀬戸山洋介	瀬名波栄潤	瀬山 邦明	仙石 正和	臺 鮎香	高木 浩	高木 正和	高木 桃恵
高崎 則行	高島 大	高瀬登志彦	高野 雅広	高橋 昭雄	高橋 彩	高橋さおり	高橋 周平
高原 周作	高柳 涼	竹井 斎	竹内 信彦	竹田 剛	竹藪 公洋	伊達 正文	田中 敏
田中 紀子	田中 陽二	田畑 太	田原 隆伸	田村 元男	辻 英幸	薦 清行	土家 琢磨
寺澤 睦	戸田 智弘	戸田 靖久	飛澤由紀子	富田 泰史	豊田 威信	内藤 有恒	中尾 紀子
中川 洋	長島 郁夫	中島 健	長野 圭介	中林 透	中山 隆	成田 吉明	西海 真一
西川 和子	西本 良一	庭野 陽樹	根来 清文	根本 隆志	根本 叔治	長谷 成人	長谷 東子
花田 秀一	林崎 弥生	林 達也	林寺 正俊	林 将人	原澤 辰明	原 義夫	春名 敏弘
久島 貞一	日比 幸人	平岩 二郎	平岩 紀子	平岡 満里	福士 幸治	福田 正晴	福永 悟郎
藤澤 裕子	船津 明	古川夕里香	古木 誠人	古田 恵	古田 康	寶金 清博	細川 威樹
堀田 哲也	本田 精一	本間 行彦	町田 泰一	松井 耕二	松井 新	松田 博幸	松野 孝平
松原 謙一	松本 嶺	馬淵 奈美	三上 隆	三木 證永	水嶋 祐治	水谷 祐輔	水波 誠
三井 貴彦	三橋 公美	湊 博之	南田 大朗	宮田 信幸	宮本 健一	棟朝 雅晴	村上 泰一
村雲 雅志	村瀬徳啓充	村瀬 亮太	村武 直樹	村田 翼	村田 寛菜	持田 徹	森田 徹雄
森田 肇	森友 嘉徳	森永 大亮	森本 夏彦	森山 喬司	安陵 智代	安田 卓二	安田美津子
柳原 盛二	矢野 理香	山口 健輔	山口聡一郎	山田 幹二	山本 睦生	横内 葉子	横尾 英樹
余湖 兼右	横浜 優樹	横山 和俊	横山 考	吉木 咲枝	吉田 香織	吉田 勝利	吉竹 忍
吉田 幸治	吉田 広志	吉田 藤夫	吉津 智史	米田 穰	李 基夏	LI XUEYU	若狭 哲
渡邊 裕	渡部 克将						

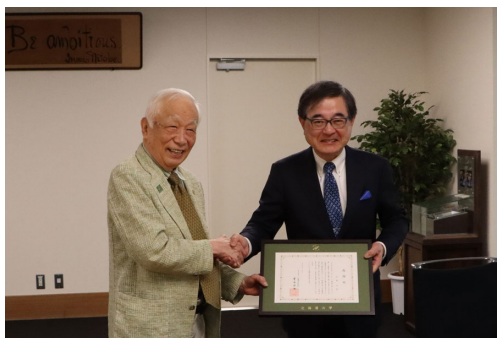
銘板の掲示 20万円以上のご寄附で新規に銘板を掲示される方

(個人)

大澤 崇宏、佐藤 隆博、柴犬 田中くん、柴 泰純、清水 薫子、杉本 絢子、根来 清文、林 将人、平岩 二郎、古田 恵、細川 威樹、棟朝 雅晴、森永 大亮、森本 夏彦、森山 喬司、矢野 理香、李 基夏

(法人)

株式会社イーエス総合研究所、日本エヌ・ユー・エス株式会社、医療法人社団豊水会たねいちりウマチクリニック、医療法人社団朋裕会とよた腎泌尿器科クリニック、和弘食品株式会社



加藤 元 様 (令和5年5月25日)



東原 俊郎 様 (令和5年8月30日)

ご寄附のお申し込み方法

北大フロンティア基金ホームページの「教職員の方によるご寄附について」にアクセスしてください。

<https://www.hokudai.ac.jp/fund/howto-staff.html>

①給与からの引き落とし

ホームページから「北大フロンティア基金申込書（兼・給与口座からの引落依頼書）」をダウンロードし、ご記入の上、卒業生・基金室基金事務担当に提出してください。

②郵便局または銀行への振り込み

卒業生・基金室基金事務担当にご連絡ください。払込取扱票をお送りします。

③現金でのご寄附

寄附申込書に現金を添えて、卒業生・基金室基金事務担当にご持参ください。

申込書は、ホームページから「北大フロンティア基金申込書（教職員現金用）」をダウンロードしてご記入いただくか、卒業生・基金室基金事務担当にもご用意していますので、お越しただいてからご記入いただくことも可能です。

④クレジットカード決済・コンビニ決済でのご寄附

北大フロンティア基金ホームページ

(<https://www.hokudai.ac.jp/cgi-bin/fund/bin/xRegist.cgi>) の寄附申し込みフォームから申込をお願いします。

北大フロンティア基金に関する問い合わせ 卒業生・基金室基金事務担当（事務局・学内電話 2017）

（社会共創部広報課）

第3回鈴木章賞授賞式及び化学反応創成研究拠点 (WPI-ICReDD) 第6回国際シンポジウムを開催

化学反応創成研究拠点 (WPI-ICReDD / アイクレッド。以下、ICReDD) では、9月10日 (日)、11日 (月) の2日間、“Toward Interdisciplinary Research Guided by Theory and Calculation” (理論と計算に先導される融合研究を

目指して) をテーマに、第6回国際シンポジウム、及び「鈴木章賞」の第3回授賞式・受賞講演会を、フロンティア応用科学研究棟の鈴木章ホールで執り行いました。国際シンポジウムはコロナ禍の影響により2020年度から長ら

くオンラインのみの開催が続きましたが、今回は講演者を会場へ招き、同時配信も行うハイブリッド開催となりました。

第3回鈴木章賞授賞式・受賞講演会

鈴木章賞は、鈴木 章ユニバーシティプロフェッサー・名誉教授の卒寿を記念するとともに、2010年ノーベル化学賞受賞の功績を称え、鈴木章賞組織委員会によって2021年に創設され、広義の化学反応の発見に関する研究への顕著な貢献を表彰し、科学技術の発展に寄与することを目的としています。

鈴木章賞は「アキラ・スズキ・アワード」と「アイクレッド・アワード」の2つの部門から成り、アキラ・スズキ・アワードは実験化学分野、アイクレッド・アワードは計算 (理論) 化学・情報科学分野を対象として、化学反応開発に顕著な功績を取めた研究者にそれぞれ授与されます。

第3回目となる2023年は、アキラ・スズキ・アワードを、スイス連邦工科大学チューリッヒ校のErick M. Carreira教授が、アイクレッド・アワードを、マックス・プランク石炭研究所 (ドイツ) のFrank Neese教授が受賞し、授賞式と併せて2名による受賞講演会が行われました。

第6回ICReDD国際シンポジウム

続いて開催されたICReDD国際シンポジウムの第1セッションでは、計算 (理論) 化学、情報科学分野を中心に、東京大学の津田宏治教授、九州大学の吉澤一成教授による講演が行われました。

第2セッションでは、名古屋大学の大

井貴史教授、ゲッティンゲン大学 (ドイツ) のLutz Ackermann教授による実験化学分野の講演が行われました。

翌日も実験化学分野を中心に、第3セッションでは、カリフォルニア大学ロサンゼルス校のAbigail G. Doyle教授、ICReDDの猪熊泰英教授、第4セッ

ションではイェール大学のTimothy Newhouse准教授、カリフォルニア工科大学のSarah E. Reisman教授、第5セッションでは南京大学のYi Cao教授、ICReDDのゲン・チェンビン教授がそれぞれ講演を行いました。

クロージングでは、ICReDD拠点長の前田 理教授より、講演者と参加者への感謝と挨拶が述べられ、シンポジウムは活況のうちに閉会となりました。シンポジウムへの参加人数は350名 (対面222名、オンライン128名。延べ人数)、加えて、初日に行われたポス

ターセッションでは、総勢38名によるポスター発表が行われたこともあり、2日間を通して日本のみならず世界各地からの参加者同士が積極的な議論・意見交換を行う姿が見られました。

ICReDDでは今後もこのような国際シンポジウムを毎年開催し、ICReDD

における研究を世界へ発信するとともに、様々な分野の研究者との融合研究を展開していきます。

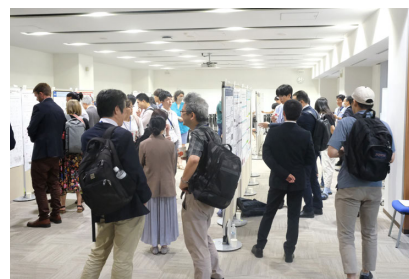
(創成研究機構化学反応創成研究拠点 (ICReDD))



集合写真



会場の様子 (猪熊教授の講演)



ポスターセッションの様子

海外ファンド検索データベース「Pivot-RP」利用説明会を英語・日本語で開催

大学力強化推進本部統合URA研究マネジメントステーションは、大学院教育推進機構先端人材育成センターI-HoPと共催で、9月12日（火）に教職員と大学院生を対象に、海外ファンド検索データベース「Pivot-RP」利用説明会を英語と日本語で開催しました。国内の研究費のみならず海外の資金獲得に目を向けることは、世界で活躍する研究者を目指す教職員や学生にとって国際的なネットワークを築く重要な機会となります。Pivot-RPは、欧米のファンディング・エージェンシーを中心に23,000件を超える資金獲得機会案件を収録したグローバルソース・データベースで、各種研究資金の他に国際会議への参加機会やポストドクや学生向

けの海外派遣機会、奨学金の情報も収録されており、研究者から学生まで多くの人に利用されています。

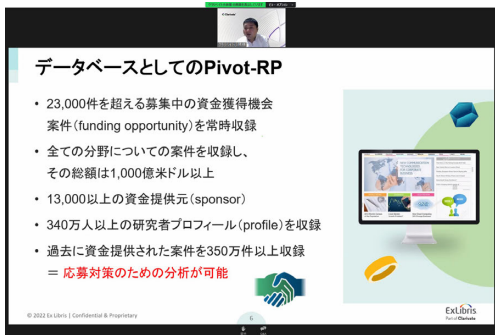
当日は、クラリベイト・アナリティクス・ジャパンから小林 隼氏を講師に迎え、Pivot-RPの効果的な使い方から学生向けの資金情報の見つけ方、アカデミックポジションで研究費を獲得していくことの意義や留意事項についてお話をいただきました。説明会の中では質疑応答も行われ、アカウント作成による便利な機能の使い方を実際にキーワード検索で実演しながらご紹介いただきました。

この説明会には、英語版に21名、日本語版に24名の、合わせて45名が参加し、外国人研究者の割合が約半分を占

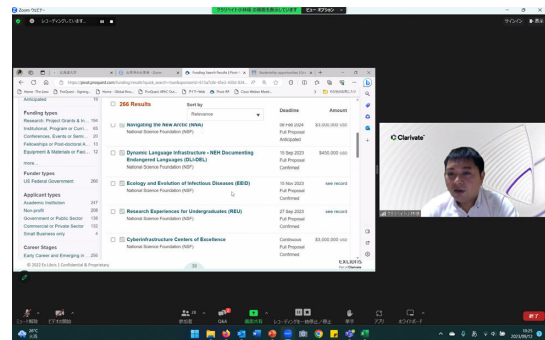
めました。また、大学院生の参加が約6割を占め、研究者を目指す大学院生の研究費獲得への関心の高さが伺えました。

海外資金を含めた外部資金獲得の支援等、研究力強化の取り組みを実施しているURAステーションと、学部から博士まで一貫したキャリア教育の強化を掲げ、大学院生向けの英語によるキャリア支援プログラムを担当するI-HoPは、今後も連携しながら研究者の国際的レピュテーションの向上に役立つ機会や情報を提供していきます。

（大学力強化推進本部統合URA研究マネジメントステーション、大学院教育推進機構先端人材育成センター）



日本語セッションの様子



英語セッションの様子

北海道大学北キャンパスシンポジウム ～北海道発スタートアップの成長を加速させる取組み～

9月14日（木）、フード&メディカルイノベーション国際拠点で北海道大学北キャンパスシンポジウムを開催し135名の参加がありました。

第1部の「スタートアップの成長を加速させる産学官の取組み」では工学研究院の金子純一准教授から本学のこれまでの取組みと今後に向けた方針について、経済産業省スタートアップ創出推進室の南 知果総括企画調整官からは国のスタートアップ創出5か年計画とそれに基づく支援制度などについて、株式会社DRIVE Incubationの藤間恭平代表からはオール北海道でスタートアップ創出を目指す「STARTUP HOKKAIDO」に関して発表が行われ

ました。

第2部ではFloatmeal株式会社の北村もあなCEOから栄養価の高い植物性のたんぱく源のウォルフィアにより食料の安全保障と気候変動への対応に挑む事業内容について、工学研究院の伊藤 肇教授からはメカノケミカル合成を活用したメカノクロス株式会社の起業について、Letara株式会社の平井翔大代表取締役からは開発した安全かつ安価な小型衛星用推進システム技術の今後の展開についてピッチが行われました。

第3部では「スタートアップに必要な人材と獲得に向けて」をテーマに、京都大学イノベーションキャピタル株

式会社の楠美 公代表取締役、同社客員起業家（EIR）の細山貴嶺氏、産学・地域協働推進機構スタートアップ創出本部の小野裕之副本部長を交えてパネルディスカッションが行われ、経営人材の不足という課題について京都大学イノベーションキャピタル社の客員起業家の取組みの紹介を交え活発な議論がなされました。

参加者からは北大発スタートアップ企業への関心が寄せられ、北大での客員起業家への期待の声がありました。

（産学・地域協働推進機構）



経済産業省スタートアップ創出推進室 南総括企画調整官



パネルディスカッションの様子



登壇者の皆様

No Maps CONFERENCE HOKKAIDO UNIV. ～大学発スタートアップの魅力や実情を話しちゃいます～

9月16日（土）、工学部建築都市スタジオ棟でNo Maps CONFERENCE HOKKAIDO UNIV.を開催、スタートアップに関するトークセッションが行われ、30名の参加がありました。

ミーツ株式会社の水丸和樹取締役CTO、株式会社サイバコの岩瀬峰代表取締役、AWL株式会社の土田美那CHRO兼上席執行役員、株式会社

PinWheelの坂入翔一朗代表取締役の4名にご登壇いただき、本学の卒業生や関係者としての立場から北大に期待すること、北海道で創業を考えたきっかけや北海道でスタートアップする中で課題と感じていることなどについて活発な議論が行われました。

参加者のアンケートでは「北海道で起業した方やスタートアップを取り巻

く状況のリアルなところが聞けた」「東京と地方のスタートアップコミュニティの差ではなくどれだけその地域が一丸になれるかが大切だと思いました」等の感想が寄せられ、大変有意義なトークセッションとなりました。

（産学・地域協働推進機構）



ミーツ株式会社 水丸取締役CTO



株式会社サイバコ 岩瀬代表取締役



AWL株式会社 土田CHRO兼上席執行役員



株式会社PinWheel 坂入代表取締役

NoMaps2023 「WELLNESS」と「STUDENTS」に参加

サステナビリティ推進機構は、9月15日（金）～17日（日）に開催されたNoMaps^{※1}の「WELLNESS」と「STUDENTS」に参加しました。

NoMaps WELLNESSは、「こころとからだの健康」をテーマに開催され、サステナビリティ推進機構は、産官学で連携して推進する「H-ARTs^{※2}」プロジェクトについて、札幌駅前通地下歩行空間（チ・カ・ホ）にブースを出展しました。

ブースでは、本学のSDGsに関する取り組みのパネルによる紹介とともに、本プロジェクトで行っている「無料で健康チェック！」の「脳年齢測定」と「ストレスチェック」を無料で実施しました。札幌医科大学保健医療学部と札幌市立大学看護学部の学生併せて9名の協力を得て、3日間の開催で、脳年齢測定では延べ177名、ストレスチェックでは延べ146名の方が体験されました。

NoMaps STUDENTSは、北海道の学生に向けた「次の挑戦の場」をテーマに開催され、9月17日（日）の18時～20時に札幌シェアオフィスBYWARD 3階において、「NoMaps Sustainability MeetUp2023 powered by 北海道大学

サステナビリティ推進機構」を開催しました。

前半は、世界の飢餓問題と栄養失調を解決するために、ウキクサの一種であるミジンコウキクサの養殖システムの研究、及び栄養食品を開発しているFloatmeal株式会社の代表者で、水産科学院修士課程1年生の北村もあな氏と、牛のげっぷとして排出される温室効果の高いメタンを削減するため、北海道の海岸に打ち寄せられる昆布から飼料添加物の開発を行うe-Combuの起業準備を進めている錦古里大河氏（北海学園大学4年）が登壇し、トークセッションが行われました。

後半は、学生起業家によるピッチが行われました。2020年に株式会社Perma Futureを設立し、その代表取締役である環境科学院修士課程1年の池田航介氏は、事業の一つである農泊プラットフォーム「ののの」の紹介を行いました。また、2021年8月に結成し、掃除、雪かき、外出付き添いなどで学生がシニアのお手伝いをする学生団体wacco副代表で工学部4年の中村風五氏が登壇しました。さらに、様々な国での文化的交流、教育機会、スキルや

知識の共有、人道的活動を促進するために、国内外の旅行者と、その国の教育機関や家族とを結びつけるプラットフォームを提供するBeeber Globalの代表で、農学院博士後期課程3年のサハ・スリスティ氏が、現在行っているグランピングや教育交流ツアーについて紹介しました。

サステナビリティ推進機構は、これからも産官学の様々なステークホルダーと連携し、本学の教育・研究の取組・発信を更に進めていく予定です。

※1 NoMapsは、2016年より「ALL HOKKAIDO 体制」で民間企業、官公庁、教育機関などが連携してスタートした、次の社会・未来を創ろうとする人たちのための交流の場を提供する取り組みであり、本年は札幌市中心部の各所において、トークセッション、ライブ、交流会など様々なカテゴリーのイベントが開催されました。

※2 「H-ARTs（ハーツ）」は、2023年度から開始した、健康で持続可能な地域社会づくりへの貢献を目指し、本学、株式会社アークス、株式会社ラルズ、株式会社ツルハ及び札幌市で進めるウェルネス推進プロジェクトです。

（サステナビリティ推進機構）



WELLNESSで出展したブースの様子



トーク発表を行う北村氏
（Floatmeal株式会社代表・水産科学院修士課程1年）



ピッチ発表する池田氏
（株式会社Perma Future代表取締役・環境科学院修士課程1年）



ピッチ発表するスリスティ氏
（Beeber Global代表・農学院博士後期課程3年）

官学連携プログラム「カーボンニュートラル夏季短期学習プログラム」を開催

サステナビリティ推進機構SDGs事業推進本部は、札幌市、上川郡下川町、法政大学及び関西大学と連携し、8月29日（火）と9月5日（火）～7日（木）に、官学連携プログラム「カーボンニュートラル夏季短期学習プログラム」を実施し、事前申込を行った法政大学、関西大学及び本学から学部生と大学院生合わせて12名（本学2名）が参加、オンライン等での学習、札幌キャンパスや下川町でのフィールドワークを行いました。

参加した学生には、法政大学デザイン工学部の川久保俊教授のオンデマンド教材の受講と、国土交通省の資料が事前学習として課されました。

8月29日（火）はオンラインにより、法政大学生命科学部の渡邊雄二郎教授、千代田区ゼロカーボン推進課の古川裕之課長及び吹田市環境政策室の山田翔三エネルギー・脱炭素担当によるカーボンニュートラルへの取り組み

についての講義を受けました。

9月5日（火）は、参加者が札幌キャンパスに集合し、サステナビリティ推進機構と連携協定を締結している住友商事地下エネルギーチームの村越勁太主任と同社北海道の電力エネルギー・輸送機材チーム小野貴史チーム長代理による同社が取り組む「Energy Innovation Initiative (EII)」等について講義を受けました。続いて、生物生産研究農場に移動し、本学の平 克郎技術職員の解説を受けながら、バイオガスプラントと牛舎、温室を見学しました。

9月6日（水）は、下川町に移動中の車内において札幌市環境都市推進部の富士本雄大係長から、札幌市の取り組みについての講義を受けました。下川町役場では田村泰司町長が出迎えられ、同町SDGs推進室の亀田慎司室長と総務企画課の山本敏夫課長による、SDGs未来都市とゼロカーボンシティ

についての講義を受けました。その後、下川町内を見学し、同町に宿泊しました。

9月7日（木）は、下川町森林組合北町工場を訪問し、製炭窯や小径木加工施設等を見学、木材の商品化について学んだ後、同工場敷地内の森に移動し、トドマツが原料のエッセンシャルオイルと芳香蒸留水のプラントを見学しました。続いて、木質原料製造施設を訪問し、燃料用チップの生産工程を見学した後、最後に「一の橋バイオレッジ」に移動し、木質バイオマスによる熱供給施設を中心としたまちづくりを見学しました。

サステナビリティ推進機構は、これからも、各地域や国立私立を問わず各大学等と連携し、「カーボンニュートラル」の実現に繋がる教育・研究の取組・発信を進めていく予定です。

（サステナビリティ推進機構）



住友商事の担当者による講義



生物生産研究農場のバイオマスプラント見学



下川町役場での講義



森林組合北町工場での見学

大学院教育推進機構が科学技術コミュニケーションの特別公開授業を実施

気候変動対策を始めとする環境政策や科学技術をめぐる市民の参加や熟議をテーマとした公開授業が、9月9日（土）に高等教育推進機構にて行われました。本授業は、大学院教育推進機構オープンエデュケーションセンター科学技術コミュニケーション研究部門（CoSTEP）の講義を特別に拡大し、理学研究院及び理学院科学技術コミュニケーション研究室と共同で実施されました。

公開授業では高等教育推進機構の三上直之准教授が、「ミニ・パブリックスと参加・熟議のデザイン」と題して講義しました。科学技術への市民参加の方法として広く用いられてきた無作為選出型の市民会議（ミニ・パブリックス）について解説した後、この手法を用いて気候変動対策を議論する「気候市民会議」が近年、欧州などで急速に広がっている動向や、三上准教授ら

による国内への導入の取り組みが紹介されました。その後、東京大学未来ビジョン研究センターの江守正多教授、科学コミュニケーションの大澤康太郎氏（CoSTEP第14期修了）、株式会社スペースタイムの中村景子代表取締役（同第1期修了）、大阪大学COデザインセンターの八木絵香教授が加わってパネルディスカッションが行われました。参加者の質問やコメントも受けつつ、対話の場を企画運営するファシリテーターに求められる資質や、ミニ・パブリックスの活用と民主主義のあり方などをめぐって議論が繰り広げられました。

公開授業は、2005年に本学に着任しCoSTEP教員も務めた三上准教授が9月末に名古屋大学に転出するのを機に行われ、CoSTEP受講生や大学院生、教職員、修了生や元教員を含む学外からの参加者など85人が参加しました。

DX博士人材フェローシップに参加する生命科学学院や総合化学院の学生も聴講し、現場のリアルな題材から科学技術コミュニケーションを学ぶ機会となりました。授業の一部はオンラインでも配信され、約40人が視聴しました。

詳しくはこちらをご覧ください。

<https://phdiscover.jp/phd/article/2306>



<https://phdiscover.jp/phd/article/2320>



（大学院教育推進機構、理学院・理学研究院）



講義する三上准教授



三上准教授の講義に聞き入る参加者



パネルディスカッションの様子



公開授業終了後の記念撮影

博士後期課程留学生向け自己PRシート作成ワークショップ “Self Promotion sheet” – Super relevant material for PhD student’s job huntingを英語で開催

大学院教育推進機構先端人材育成センターI-HoPは、9月14日（木）に博士後期課程留学生を対象とした日本就職を視野に入れた自己PRシート作成ワークショップ「Self Promotion sheet” – Super relevant material for PhD student’s job hunting」を英語で開催しました。

当日は、若手博士に特化したキャリア支援サービス博士情報エンジンwakateを展開する株式会社エマージングテクノロジーズの深澤知憲代表取締役社長を講師に迎え、日本での民間企業の就職活動の場面で博士の専門性はどのように伝えたらよいか、そのた

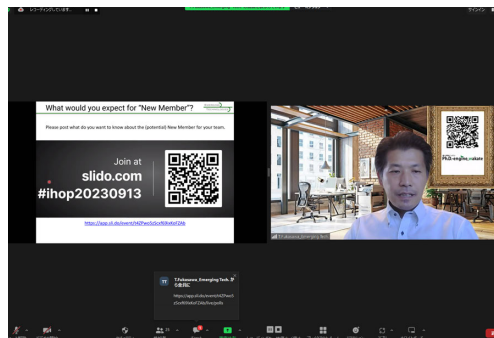
めの考え方や理解しておくべきこと等について説明が行われ、ワークシートを使ってそれぞれの参加者が専門性の説明を試みるワークを行いました。

博士人材育成コンソーシアムの連携大学を含む全国4大学（北海道大学、東北大学、立命館大学、沖縄科学技術大学院大学）から計28名の留学生が参加し、終了後のアンケートでは「このセミナーは、日本での就職を希望する外国人博士課程/博士課程/修士課程の学生にとって非常に有益である」「とても参考になったセミナーで、日本での就職活動について楽しく学ぶことができた」等のコメントが寄せられまし

た。

北海道大学は、学生の在籍数に占める留学生の割合は博士後期課程の約3分の1、修士課程の約4分の1となっており、留学生向けの英語によるキャリア支援は重要な課題となっています。I-HoPでは、大学院留学生の日本でのキャリアパスを広げるため、就職支援やトランスファラブルスキル強化など、英語による多様なプログラムを展開しています。

（大学院教育推進機構先端人材育成センター）



説明を行う講師の深澤代表取締役社長

「国民との科学・技術対話」支援事業 アカデミックファンタジスタ 北方生物圏フィールド科学センター 中村誠宏 教授が 札幌日大高校の生徒を対象に講義を実施

「森林生態系の健康診断！」 北方生物圏フィールド科学センター 教授 中村誠宏

苫小牧研究林長を務める中村教授は、森林をフィールドとした野外操作実験を駆使して、温暖化が樹木に与える影響や、植物と昆虫の相互作用などを調査研究しています。8月4日（金）、札幌日大高校の生徒たちを招いて講義を実施し、苫小牧研究林で行われてい

る様々な野外調査を紹介しました。生徒たちは、苫小牧研究林の地層、土壌、植生などの特徴や、野ネズミ、昆虫、魚類などの調査方法について、それぞれの現場で観察しながら学びました。

受講した生徒たちからは、「森林を

散策すること自体が新鮮だったし、それを通して色々な生き物に出会えたのも良かった」、「地中を調べ、歴史やその地域の植物の特性と結びつけて研究しているのが印象に残った」など森林での体験を通じて学んだことの感想が寄せられました。

日時：2023年8月4日（金）9：30～12：30

会場：北海道大学 苫小牧研究林

参加高校：札幌日本大学高等学校

参加生徒：1～2年生 12名

アカデミックファンタジスタとは？

北海道大学の研究者が知の最前線を出張講義や現場体験を通して高校生などに伝える事業、「アカデミックファンタジスタ（Academic Fantasista）」。内閣府が推進する「国民との科学・技術対話」の一環として、北海道新聞社の協力のもと2012年から継続的に実施しています。今年度は札幌近郊の高校等を対象に31名の教員が講義を実施しています。

北大の研究を発信するウェブマガジン「リサーチタイムズ」や、Facebookでも講義レポート等を随時更新中です。こちららもぜひご覧ください。

・リサーチタイムズ

<https://www.hokudai.ac.jp/researchtimes/academic-fantasista/>

・Facebook

@Hokkaido.univ.taiwa



リサーチタイムズ



フェイスブック

（広報・社会連携本部

広報・コミュニケーション部門）



苫小牧研究林での調査研究を解説する中村教授



参加者全員で記念撮影

■ 部局ニュース

令和5年度分島亮研究奨励金授与式を挙行

9月4日（月）、理学研究院長室において、「令和5年度分島亮研究奨励金授与式」が執り行われました。

本奨励金は、分島 哲様・分島敦子様が、令和3年5月にご逝去されたご子息の分島 亮様（元理学研究院准教

授）の意志を引き継ぎ、基礎研究を行う若手ポストクの支援を目的にご寄附されたことを契機に、理学研究院において若手ポストクの研究を支援しようとする趣旨で創設されたものです。

授与式では、関係者列席のもと、網

塚 浩理学研究院長から採択者2名に証状が授与され、本奨励金の趣旨と今後の研究活動に対する期待と激励の言葉が述べられました。

（理学研究院）



採択者との記念撮影（左から常峰 悟学術研究員、網塚理学研究院長、Ahmad Shaqeer Bin Mohamed Thaheer 博士研究員）

総合博物館が博物館実習を実施

総合博物館は、9月5日（火）～8日（金）・11日（月）～14日（木）の8日間、博物館実習を行い学部4年生から博士課程1年生まで専門分野が異なる16名が取り組みました。

午前中の演習では、坪田敏男館長と研究部教員、越前谷宏紀研究員（資料部）が担当分野の研究と教育、博物館活動について収蔵庫や展示室の案内も含めて説明し、近藤誠司研究員（資料

部）と三谷朋弘准教授（農学研究院・資料部）が第2農場を解説・案内しました。事務担当の井上 猛係長による館運営や事務業務の説明、研究支援推進員の市來紗都子氏と土田江里子氏によるパネル製作実習、展示解説ボランティアの笹谷幸恵氏と渡部典子氏による解説実演も行われました。

午後の実習は、第2農場、陸上植物、動物、地学の4班に分かれ、標本の採

集と分類、解剖、展示の改訂や新規制作に取り組みました。最終日には、8日の実習における各班の活動の内容と成果、課題を発表しました。報告会での活発な意見交換や実習生による事後レポートから、16名がそれぞれに博物館の諸活動への理解が実感をもって深めたことがうかがえます。

（総合博物館）



農機具に関する展示の改訂を検討する第2農場班



構内で採集した植物を同定して展示室標本を作製する陸上植物班



鳥類の解剖を行う動物班



古生物の部屋（館内3階）に羽幌産プリオサウルス類の展示を新設した地学班

医学研究院医理工学グローバルセンターが国際シンポジウム「The 10th GCB Biomedical Science and Engineering Symposium」を開催

医学研究院医理工学グローバルセンターは、8月20日（日）に米国スタンフォード大学放射線腫瘍学科と合同で第10回GCB国際シンポジウム（The 10th GCB Biomedical Science and Engineering Symposium）を医学部臨床講義棟にて開催しました。昨年度に引き続き、現地会場とライブ配信を併用したハイブリッド形式により実施し、医理工学グローバルセンターの取り組みを世界に向けて発信しました。

今回は「Oligometastasis（少数転移）」をメインテーマに、スタンフォード大学のみならず、米国ジョンス・ホプキンス大学、韓国成均館大学等から世界の第一線で活躍する多彩な分野の研究者が集結し、放射線生物、医学物理、放射線治療、画像診断の多角的

な視点から、最先端の研究成果について発表が行われました。

医学研究院長兼本センター長である畠山鎮次教授による開会の挨拶で幕を開け、放射線誘発性腫瘍と免疫反応、少数転移の放射線治療戦略や最先端の治療計画、神経画像診断等のトピックについて、招待講演者6名と本学研究者4名による講演が横断的に行われ、各講演後には、次世代を担う新進気鋭な若手研究者から多くの質問が寄せられました。続くディスカッションでは各分野のエキスパートがディスカッサントとして加わり、議論をさらに深めました。最後に、本センター副センター長の久下裕司教授による閉会の挨拶があり、全ての登壇者と参加者への感謝が述べられ、盛会の内に終了しました。

今回で10回目の開催となり世界的にも注目度の高いイベントとなりつつある本シンポジウムは、世界中から207名の参加登録があり、現地会場には10カ国から65名が参加し、例年に劣らず国際色豊かなシンポジウムとなりました。また、翌日には、本センターが主催するサマースクールと合同で懇親会を開催しました。本学の教職員、学生も多く参加し、国際交流を深めるとともに、今後の国際共同研究への新たな可能性が期待される良い機会となりました。今後も国際性を担保した研究開発と人材育成を行う研究拠点として、積極的に活動してまいります。

（医学研究院）



ジョンス・ホプキンス大学Haris Sair博士による講演



ディスカッションの様子



会場の様子



懇親会集合写真

医学研究院医理工学グローバルセンターが第6回GCB分子生物医科学・診断学サマースクール及び第10回GCB医学物理サマースクールを開催

医学研究院医理工学グローバルセンターは、8月21日（月）～8月25日（金）の5日間にわたり、米国スタンフォード大学放射線腫瘍学科と合同で第6回GCB分子生物医科学・診断学サマースクール及び第10回GCB医学物理サマースクールを開催しました。コロナ禍により海外からの参加はオンラインに限定して実施してきましたが、今年は4年振りに海外からの参加者を現地に受け入れ、完全対面形式での開催を復活しました。

毎年多彩な講師をお招きし、本サマースクールならではの教育プログラムを提供しています。今年は、米国スタンフォード大学、ジョーンズ・ホプキンス大学、台湾長庚記念病院、トルコボアズィチ大学、京都大学、量子科学技術研究開発機構、日立製作所、統計数理研究所から外部講師をお招きし、学内からは、医学研究院、工学研究院、

保健科学研究院、歯学研究院、理学研究院、北海道大学病院、アイソトープ総合センター、獣医学研究院所属の教員が全編英語のオムニバス形式にて講義を行いました。医学物理サマースクール、分子生物医科学・診断学サマースクールともに、基礎や理論、応用研究、実習を網羅した包括的な講義がバランスよく組み込まれ、今年は特に、ハンズオン実習の充実化を図りました。また、参加者による研究発表も行われ、多様な言語・文化・社会的背景を持つ参加者がお互いから学び合う姿が印象的であり、グローバルな研究交流が一層深められました。

今年も海外から多くの方にご応募いただきましたが、オンラインとは異なり、現地での参加は受け入れ人数に限られるため、選考は昨年度よりも厳しいものとなりました。厳正な選考の結果、今年はオーストラリア、バンガラ

デシュ、インドネシア、カナダ、タイ等を含む10カ国から医学物理サマースクールには6名、分子生物医科学・診断学サマースクールには12名が参加しました。また、昨年度に引き続き、Hokkaido Summer Instituteの科目としても同時開講しました。サマースクールの最終日に実施した参加者アンケートからは、非常に有意義な5日間であったと好評を得るとともに、現地で参加できたことを喜ぶ声が多く寄せられました。オンラインではできない実習やファシリティーツアーは特に好評でした。参加者から頂いた意見をもとにプログラムを更にブラッシュアップし、今後も本センターの特色を活かした国際連携教育活動に取り組んでいきます。

（医学研究院）



講義の様子



実習の様子1



実習の様子2



参加者集合写真

動物慰霊式を挙行

医学研究院附属動物実験施設では、9月19日（火）、医学部学友会館「フラテ」ホールにおいて、令和5年度動物慰霊式を執り行いました。

本慰霊式は、医学並びに生命医科学の教育研究のために多数の動物の尊い生命が犠牲になっていることを厳粛に

受け止め、動物の霊を追悼するとともに、生命の尊厳と倫理について啓発することを目的に実施しているもので、教職員、学生等が参列しました。

はじめに大場雄介施設長から追悼の辞を述べた後、畠山鎮次医学研究院長の挨拶、参列者全員による黙祷・献花

を行いました。最後に大場施設長から、適正な動物実験の実施について、一層の理解と協力を願う旨の挨拶があり、厳粛のうちに慰霊式を終了しました。

（医学院・医学研究院・医学部）



追悼の辞を述べる大場施設長



畠山医学研究院長による挨拶



参列者による献花

薬学研究院寄附分野「認知症先進予防・解析学分野」 感謝状贈呈式及び公開シンポジウムを開催

薬学研究院に寄附分野として認知症先進予防・解析学分野が令和3年4月に開設されました。数年にわたり続いた新型コロナウイルス感染症の流行が、本年春頃から収束傾向となり、感染症の位置づけも5類へと変更されたことを受け、感謝状贈呈式と公開シンポジウムを9月12日（火）に開催しました。

日本は65歳以上の人口割合が21%を超える超高齢化社会を迎えており、加齢に伴い増加する認知症の対策は解決すべき重要な課題となっています。認知症で最も患者数が多い病気はアルツハイマー病（以下、「AD」）。であり、およそ70%の認知症患者はADと言われ、ADの予防・診断・治療法の開発と実用化は社会的な要請となっています。最近、ADの発症原因物質に対するいくつかの抗体医薬の開発が進み、我が国でも承認される見込みである事

など、明るいニュースが話題になっています。しかし、高齢者の発症を予防する科学的エビデンスに基づいた方法の実施や、治療が必要な患者の早期発見を可能とする非侵襲的で簡単な診断法の開発、さらに、発症を遅らせるだけではなく、認知機能低下の進行を止め、改善効果が期待出来る薬剤の開発と実用化は、世界が求める「研究成果の社会実装」とされています。

認知症先進予防・解析学分野は、ADの発症機構解明の基礎研究から、日本医療研究開発機構のプロジェクトである髄液・血液を用いた診断法の開発、北海道大学病院・臨床研究開発センターと共同での無痛経皮投与治療薬の開発などを進めてきました。今回の公開シンポジウムは、これまでの研究・開発成果の一端を紹介するとともに、国内外の神経科学、認知症学の研

究領域で活躍している研究者に最新の成果や認知症研究の課題を発表・解説しました。本分野から生まれた研究成果が多くで実用化され、本分野で育った若い研究者が国際的に活躍し、認知症という地球規模の課題解決に貢献する事が期待されます。

今回、寄付者であるジャパン・メディカル・リーフ株式会社様（有岡和彦代表取締役社長）に寶金清博総長から感謝状が贈呈されました。「認知症の無い世界」を目指した分野開設にご理解をお示し下さり、研究の継続と実用化に絶大なるご支援を承りましたジャパン・メディカル・リーフ株式会社様に改めて感謝申し上げます。

（薬学研究院・薬学部）



感謝状贈呈式記念写真



公開シンポジウム看板

スマート農業教育研究センター開所式を挙

農学研究院と北方生物圏フィールド科学センターは、スマート農業の教育・研究を通して持続的社会的実現を目指したスマート農業教育研究センターを設置し、8月31日（木）に開所式を挙りました。スマート農業とは、ロボット技術や情報通信技術（ICT）を活用して、省力化・精密化や高品質生産を実現する新しい農業技術です。スマート農業には労働力不足の解消、データによる農作業技術の継承、農産物の品質向上・収量増など数多くのメリットがあり、さらに環境・エネルギー面での持続性確保においても貢献できるため、世界的に研究開発が加速しています。農学研究院では、ICTやロボット技術を活用したスマート農業研究を30年以上にわたって行い、その成果は国内外に広く知られています。また、2022年度から北方生物圏フィールド

科学センターが農林水産省スマート農業教育推進事業を受託し、スマート農業の社会実装に向けた教育プログラムの開発と運営を行っています。スマート農業教育研究センターのミッションは「学生教育」、「オープンラボ（研究開発）」、「実証フィールド（技術実証）」、「実演展示（社会啓発）」で、スマート農業技術の研究開発や技術実証を通じ、将来のスマート農業を担うリーダー的人材を育てることも大きな狙いとしています。また、北広島市にある日本ハムファイターズの新球場「北海道ボールパークFビレッジ」に本年6月に開設した株式会社クボタの農業学習施設「クボタアグリフロント」と連携して、青少年・子供たちへの農業問題と未来の農業に関する教育にも参画しています。

開所式には、鈴木直道北海道知事の

ほか、農業・食品産業技術総合研究機構の久間和生理事長、文部科学省の西條正明大臣官房審議官、農林水産省農林水産技術会議事務局の東野昭浩研究総務官、東日本電信電話株式会社の澁谷直樹代表取締役社長、株式会社クボタの北尾裕一代表取締役社長らを来賓としてお招きし、北海道内外から約90人の出席がありました。開所式は寶金清博総長のあいさつ、来賓祝辞、スマート農業教育研究センターの概要説明、テープカット、2つのテーマについてトークセッション、ショートプレゼンテーション、そして最後に施設内覧、ポスター展示、ローカル5Gを用いた複数のロボット農機の遠隔監視・操作の実演を行いました。

（農学研究院・農学院・農学部）



左から、東日本電信電話株式会社 澁谷代表取締役社長、株式会社クボタ 北尾代表取締役社長、農業・食品産業技術総合研究機構 久間理事長、文部科学省 西條大臣官房審議官、農林水産省農林水産技術会議事務局 東野研究総務官、北海道大学 寶金総長



挨拶する寶金総長



祝辞を贈る鈴木北海道知事



「NTT東日本 ミライ共創Room」と名付けられたロボット監視室で実施した実演会

地球環境科学研究院が令和5年度公開講座 「気象・気候研究の最前線：観測、理解、未来」を実施

地球環境科学研究院は、令和5年度公開講座「気象・気候研究の最前線：観測、理解、未来」を8月28日（月）～9月25日（月）まで全5回をオンラインにて開講し、15歳から85歳までの117人が受講しました。

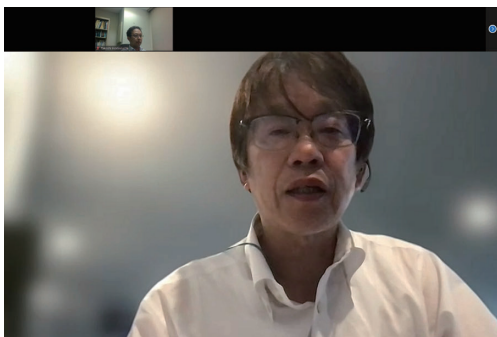
気象と気候は、日々の暮らしや環境に大きな影響を与え、ときに災害をもたらします。その研究は、北海道大学を含む世界中の研究機関で精力的に進められています。本講座では、本研究

院に所属する5名の教員が、それぞれの専門性を活かして、研究の最前線を分かりやすく紹介しました。社会的関心が高く防災に重要な台風（第1回）、気候変動に重要な役割を果たし降水の素ともなる大気と海洋の相互作用（第2、4回）、はるか上空にありながら環境に大きな影響を与える成層圏（オゾン層）（第3、5回）に焦点をあてました。これらの話題について、全地球的な把握の基礎となる人工衛星による観

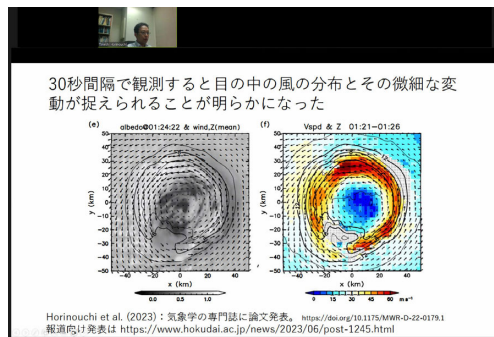
測、観測やシミュレーションをもとにもたらされる理解、そして、今後の発展性や将来予測など未来について議論し、受講者からも非常に好評のうちに終了となりました。

全5回の講義のうち3回以上に出席した102人の受講者に修了証書が授与されました。

（地球環境科学研究院）



谷本陽一地球環境科学研究院長の開講挨拶



堀之内武教授担当の講義（第1回）

メディア・コミュニケーション研究院で「北海道大学研究集会2023」を開催

メディア・コミュニケーション研究院は8月29日（火）、8月30日（水）に高等教育推進機構にて「北海道大学研究集会2023ポストコロナ時代の言語教育におけるオンライン授業と翻訳AI・生成AIへの対応に関する研究」を開催しました。

本研究集会の開催は、情報基盤センター萌芽型共同研究『ポストコロナ時代の言語教育におけるオンライン授業と機械翻訳への対応に関する研究』の支援によるもので、コロナ禍のオンライン授業の実践で得られた知見と蓄積されたノウハウを、対面授業が主流となるこれからの言語教育でどのように

活用するか、そして急速に発達する翻訳AI・生成AIに対して言語教育はどのように向き合うべきかについて考察することを趣旨として開催されました。

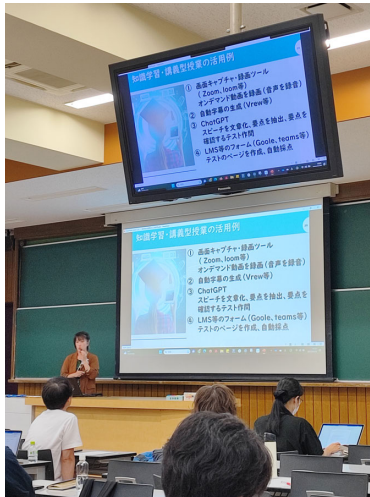
8月29日（火）には、ポストコロナ時代のオンライン授業のあり方をテーマとして、東海大学の田中彰吾教授による講演、それに引き続き、本学メディア・コミュニケーション研究院の堀晋也助教、札幌国際大学の杉江聡子准教授、情報基盤センターの田邊 鉄准教授によるシンポジウムが行われました。

8月30日（水）には、翻訳AI・生成

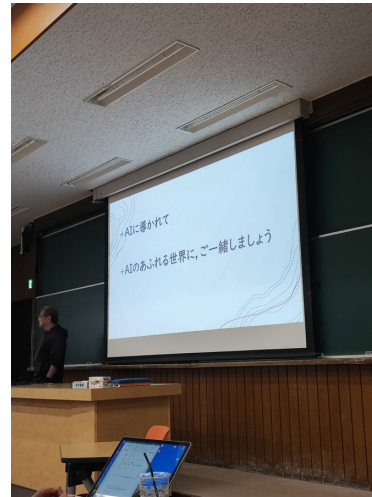
AIへの対応をテーマとして、立教大学の山田 優教授、京都大学の木村 充名誉教授、千葉商科大学の酒井志延名誉教授による講演と3氏によるシンポジウムが行われました。

本研究集会の内容は、現在の言語教育におけるタイムリーなテーマであることから関心も高く、道内外より参加者数が2日間で延べ100名を超える盛会となりました。個別言語や教育機関の枠を超えて多種多様な分野・領域の関係者が参加し、活発な意見交換を行う大変有意義な機会となりました。

（メディア・コミュニケーション研究院）



シンポジウムの模様



千葉商科大学 酒井名誉教授による講演の様

国際広報メディア・観光学院 韓国・ソウルにて留学生向け説明会を実施

国際広報メディア・観光学院では、9月2日（土）に留学生向け説明会を実施しました。今年は韓国・ソウルにて対面とオンラインのハイブリット開催となり、約14名（対面3名、オンライン約11名）の参加がありました。加えて、修了生2名も参加しました。

奥 聡国際広報メディア・観光学院長の挨拶に続き、例年通り、学院の紹介、研究生と大学院生としての学修システム、書類審査応募の注意点、研究生としての勉強、大学院修了後の進路など、留学希望者にとって必要な情報

が提供されました。全体説明終了後、韓国語と中国語に別れてハイブリットで個別相談と質疑応答の時間が設けられました。また、修了生による、自らの体験をもとにした留学や学修に関するアドバイスも行われました。

説明会終了後に行った参加者アンケートでは、教員による分かりやすい説明、ハイブリット開催で参加しやすいこと、日本語だけではなく、韓国語・中国語での対応などについて評価をいただきました。「北大ならではの特徴と良さがよく伝わった」「留学の時

期、受験準備など具体的に計画できるようになった」などの感想もありました。

説明会を通じて、参加者の本学留学への熱意を感じており、今後も対面とオンラインのそれぞれの強みを活かして、台湾や北京など様々な地域で説明会を開催することを前向きに検討しています。

（国際広報メディア・観光学院）



説明会の様子



個別相談の様子

シンガポール・テマセク・ポリテクニク (Temasek Polytechnic) が国際広報メディア・観光学院を訪問

シンガポールのテマセク・ポリテクニク学生20名と教員2名が、9月27日(水)に国際広報メディア・観光学院を訪問しました。

「ポリテクニク」とは、産業界と連携して実務レベルの人材育成のために設立された教育機関で、現在シンガポールに5校あります。そのなかでもテマセクは、シンガポール政府が所有するテマセク・ホールディングズにより設立された教育機関です。今回の訪

問では、テマセク・ポリテクニクのビジネススクール内にあるホスピタリティ・観光マネジメントコースの学生と教員が本学院を訪問しました。当日は、奥 聡国際広報メディア・観光学院院长による学院説明、本学院教員による講義をはじめ、本学と工学院院生に加え、法学部、農学部 of 学部生を合わせた北大学生と先方学生との交流がシンガポールの伝統ゲームなどを通して行われました。

本交流は、北海道庁ASEAN事務所を通し、高等教育推進機構国際教育研究部の川端千鶴講師と井上修平客員教授の協力のもと実施されました。本学の産学連携をより国際的に進めていくうえで重要な一歩となることを期待しています。

(国際広報メディア・観光学院、メディア・コミュニケーション研究院)



集合写真

低温科学研究所所有の人工雪製作装置等が令和5年度国立科学博物館「重要科学技術史資料（未来技術遺産）」として登録

低温科学研究所が所有する「世界で初めて人工的に雪の結晶の製作に成功した実験装置（復元）」が、独立行政法人国立科学博物館が認定する「重要科学技術史資料（愛称：未来技術遺産）」に登録され、9月12日（火）に国立科学博物館にて登録証及び記念盾授与式が行われ、併せて、9月12日（火）～9月24日（日）にパネル展示が行われました。

重要科学技術史資料の登録制度は、「科学技術の発達史上重要な成果と意義を持つ科学技術史資料」及び「国民

生活、経済、社会、文化の在り方に顕著な影響を与えた科学技術史資料」の保存と次世代への継承を目的としたもので、平成20年度より実施されています。

今回登録されたのは、本研究所の創立・発展に大きく貢献された中谷宇吉郎博士が人工雪製作に利用した「二重ガラス管（復元）」、人工雪の結晶の形を樹脂で固定した「雪の結晶のレプリカ」、戦前研究室に掲示された「北海道帝国大学常時低温研究室規程施行細則」、実験に用いられた「ウサギの腹

毛」の4点です。いずれも、世界の雪・氷工学の原点として重要であると認定され、登録されました。

授与式に出席した低温科学研究所長の渡部直樹教授は、「人工雪の製作装置は低温科学研究所の原点であり、今回の登録が、オリジナリティ溢れる研究の重要性を再認識する機会になる」と述べました。

（低温科学研究所）



登録証の授与（渡部所長、写真右）



パネル展示前集合写真（右から2番目は中谷宇吉郎博士のご息女、中谷芙二子氏）

北方生物圏フィールド科学センターで「じゃがいも掘り」を開催

北方生物圏フィールド科学センター生物生産研究農場では、9月9日（土）、10日（日）に学内教職員を対象とした「じゃがいも掘り」を令和元年度以来4年ぶりに開催しました。

当日は晴天に恵まれ、夏の暑さが少し残るものの心地よい風が吹く中、抽選で選ばれた292組の教職員が参加しました。

会場はポプラ並木のすぐそばにある第一農場で、今年は「男爵薯」「キタアカリ」「とうや」の3品種の畑を用意しました。家族での参加者も多く、土の中からじゃがいもを掘り起こす

と、あちらこちらで歓声が上がっていました。

子供たちは泥だらけになりながらも自らの手でじゃがいもを掘り起こして大きさを競ったり、また会場入口に展示していた普段農場で使用しているトラクターの運転席に乗車して記念撮影をするなど、家族との楽しいひとときを過ごしていました。

来場者からは「子供も参加できるこれほど楽しくて多くの学びになる体験は、なかなかありません」「普段の生活では気がつかなかった子供の成長を実感することもできました」「じゃが

いもがホクホクでとても美味しかったです」など、生産者にとってうれしい声が聞かれました。

生物生産研究農場では、体験的な農場実習のカリキュラムの中で、農産物の販売を視野に入れたじゃがいもの栽培をプログラムに取り入れています。農場ではこうして栽培したじゃがいもを実際に販売することによって、農場の教育・研究活動を知っていただき、学内の方々と交流を進めたいと考えています。

（北方生物圏フィールド科学センター）



じゃがいも掘り会場



掘り起こしたじゃがいも

観光学高等研究センターと株式会社ゴールドウインが連携協定を締結

観光学高等研究センターと株式会社ゴールドウインは、9月29日（金）に連携協定を締結しました。締結式には、同センターから山村高淑センター長、木村 宏教授、国際広報メディア・観光学院から奥 聡学院長、株式会社ゴールドウインから渡辺貴生代表取締役社長など関係者約20名が参加しました。

本連携協定は、「価値共創」、「地域協働」、「国際貢献」を理念とし、観光による地域創生、観光産業の転換、ライフスタイル・イノベーション、観光分野の国際協力といったテーマに挑戦する同センターと、「スポーツを通じて豊かで健やかな暮らしを実現する」をミッションに、革新的な製品開発でサステナブルな取り組みや地球環境の改善を目指し、感動を創造し持続可能な社会を推進、子どもたちの

可能性を引き出し美しい未来を形作るための閃きと機会を提供している株式会社ゴールドウインが、相互に協力体制をとることにより、学術研究・地域振興・教育などの多岐にわたる相互協力体制を構築し、地域を牽引する観光地創造、ライフスタイルの転換を提言、スポーツやアウトドアアクティビティを通じた観光実践を目指すものです。

本連携協定では、スポーツやアウトドア分野におけるツーリズム研究を協働して深化させることでスポーツとツーリズムの融合を誘発し、ライフスタイルの多様性を見出し健康サービス産業発展に貢献することを目指した共同研究の実施と、国際広報メディア・観光学院が開講する演習科目や「DMO運営実践講習」をはじめとする履修証明プログラム（デスティネーション・

マネージャー育成プログラム）で実施される実務家、アスリート等による講義、フィールドワークへの協力体制を整え相互協力のもと人材育成のための教育プログラムを展開していきます。

この協定締結により、スポーツを通じた新たな価値の創造を実践してきた株式会社ゴールドウインの活動を本センターが実践してきたツーリズム研究に融合させることで、新たなライフスタイル・イノベーションを創出できることが期待されます。

その事業拠点として、本センターにGW×CATS・ライフスタイルツーリズム・ラボ（GCLL）を設置し、実践的な連携関係を推進していく予定です。

（観光学高等研究センター）



木村教授による協定概要説明



調印の様子



左から木村教授、渡辺代表取締役社長、山村センター長、奥国際広報メディア・観光学院長

環境健康科学研究教育センターが令和5年度前期「社会と健康」 修了生にディプロマ授与

環境健康科学研究教育センターは、9月13日（水）に令和5年度前期「社会と健康」ディプロマ授与を行いました。今回は2名（医学院博士課程2年：若狭はな氏、保健科学院博士後期課程3年：菊地眞海氏）のプログラム修了生に対して、環境健康科学研究教育センターの山内太郎センター長からディプロマが授与されました。

本プログラムは、本学大学院のすべての専攻／学院／研究科に在籍する大学院生に開かれたプログラムです。本プログラムでは、大学院共通授業「社会と健康」から5領域20単位以上（うち、必修科目11単位以上）を体系的に学ぶカリキュラムを編成しています。また、大学院共通授業「社会と健康」

科目に加えて、これまでに各学院・研究科が提供する82科目が、ディプロマプログラムへの振替科目として認められています（令和5年9月13日現在／過年度の科目を含む）。「社会と健康」領域において、環境要因と健康・予防に関する知識、研究技法を学ぶ意欲がある大学院生に対して、豊かな人間性、高い倫理観及び国際的視野を備え、研究課題に必要なPublic Healthに関わる知識を得るため科目選択の指針を与えています。本プログラムの指針に沿って科目履修し、所定の単位取得が認められた学生に対して、「社会と健康」に関する知識と実践教育を受けたことを証明するディプロマを授与します。

「社会と健康」ディプロマは、平成27年3月に第1回目の授与を行い、今回は第10回目の授与となり、累計18名の方がプログラムを修了しました。これまでに、医学院、教育学院、保健科学院、文学研究科、農学院、獣医学院、工学院所属の学生が参加しており、研究分野の垣根を越えた文理融合型の人材育成となっています。留学生の参加も増え、今後ますます多様な人材の輩出が期待されます。

令和5年度後期の「社会と健康」ディプロマプログラム登録申請は、本年12月末まで受け付けており、来年3月に後期授与を予定しています。

（環境健康科学研究教育センター）



授与式後の記念撮影



山内センター長よりディプロマを授与される若狭氏



山内センター長よりディプロマを授与される菊地氏

■お知らせ

医療費通知事業の実施

国家公務員共済組合法附則第14条の3第1項に基づく国家公務員共済組合連合会の共同事業の一つとして、昭和56年度から実施している医療費の通知事業を今年も行うことになりました。

この通知事業は、組合員に対し医療費の額等を通知することにより、組合員等に健康に対する認識を深めていただき、ひいては、短期給付事業の健全な運営に資することを目的として、特定月における支払分について通知するものです。実施内容は次のとおりです。

1. 通知の対象

組合員及びその被扶養者に係る令和5年6月診療分の診療報酬明細書（レセプト）による医療費の額等です。

なお、共済組合の直営医療機関並びに契約医療機関に係る請求分、任意継続組合員、遠隔地被扶養者及び在外組合員に係る請求分、特定の診療部門に係る請求分は通知の対象から除外されます。

2. 通知の内容

通知の内容は、受診者名、診療年月、診療日数、入院・通院・歯科・薬局の別、医療費の額及び病院名です。

3. 通知票の組合員への配付

通知票の組合員への配付は、令和5年11月末頃までに各部署等の共済事務担当係から行われる予定です。

(文部科学省共済組合北海道大学支部)

博士学位記授与

本学大学院研究科等の所定の課程を修了した課程博士85人、及び本学に学位論文を提出して、その審査、試験等に合格した論文博士3人に対する学位記授与式を、9月25日（月）に、学術交流会館において挙行了しました。

式では寶金清博総長から各研究科等の総代へ学位記が手渡され、最後は北大交響楽団の弦楽四重奏による「都ぞ弥生」の演奏で締めくくられました。9月の被授与者の氏名と論文題目等は次のとおりです。

(学務部学務企画課)



寶金総長による挨拶



学位記を受ける総代の様子

課程博士

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者	
	氏名	博士論文名
博士（法学）	ソック ヴァンニー SOK VANNY	カンボジア及び日本における民事交通事故法理に関する総合的研究 主査：教授 根本 尚徳
博士（水産科学）	アルファベチアン ハルジュノ HARJUNO チョンドロ CONDRO ハデイトモ HADITOMO	Understanding Global Aquaculture Microbiome Trends Toward Constructing Sustainable Local Smart Aquaculture (地域養殖の高度化に向けた世界の養殖マイクロバイオームへの理解) 主査：教授 井上 晶
	いぎ あこ 伊木 亜子	ヨウ素低減コンブ加工食品の製造技術の開発 主査：教授 岸村 栄毅
	みやべ よしかつ 宮部 好克	低利用海藻ダルスおよびマツモの成分・加工特性の解明に関する研究 主査：教授 清水 宗敬
	ユウ ジョソオン 前 篤文	Characterization of pioneer microbiomes associated with <i>Apostichopus japonicus</i> : Insights into host-microbe interactions and sustainable aquaculture (宿主と微生物の相互作用と持続可能な養殖に向けての洞察) 主査：教授 井上 晶
博士（環境科学）	バルニ BALLOO ナンダニ Nandani	Isolation and structure elucidation of novel cyanobacterial secondary metabolites using OSMAC approach (OSMAC法を用いた藍藻由来新規二次代謝産物の単離と構造決定) 主査：教授 沖野 龍文
	エイ ミント AYE MYINT ミヤットソエ MYAT SOE	Assessment of heavy metal content in rice and soil samples from rainfed paddy fields in Yangon Division, Myanmar (ミャンマー・ヤンゴン管区の天水水田から採取した米および土壌試料中の重金属含有量評価) 主査：教授 野呂 真一郎
	グロンウォルド GRONWOLD ナサニエル Nathaniel バーナード Bernard	Comparative studies on recovery histories and conservation strategy for <i>Grus japonensis</i> and <i>Grus americana</i> (タンチョウおよびアメリカ・シロヅルの回復史と保全戦略に関する比較研究) 主査：教授 渡邊 悌二
	ショウ ケン 肖 娟	Enhancing crop monitoring using unmanned aerial vehicle (UAV) images and deep learning (ドローン画像とディープラーニングを用いた作物モニタリングの強化) 主査：准教授 Ram Avtar

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者		博士論文名
	氏名		
博士（環境科学）	いづか 飯塚 むつみ 睦	Changes in the ice sheet of the Wilkes subglacial basin and the high-latitude Southern Ocean during the Last Interglacial (最終間氷期におけるウィルクス海盆の氷床と南大洋高緯度の変動に関する研究) 主査：准教授 関 宰	
	つかだ 塚田 たいが 大河	A study to estimate wind distribution in the inner-core region of tropical cyclones using geostationary meteorological satellites (静止気象衛星を用いた台風内部コア領域の風速分布の推定に関する研究) 主査：教授 堀之内 武	
博士（理学）	おやま 小山 もとき 元希	Topology of Complements of Real Space Line Arrangements and Linearly Embedded Graphs (実直線配置及びグラフ線形埋め込みの補空間に関するトポロジー) 主査：教授 秋田 利之	
	すけかわ 祐川 つばさ 翼	On stability of spatial patterns for mass-conserved reaction-diffusion systems (保存量をもつ反応拡散系における安定な空間パターンについて) 主査：特任教授 栄 伸一郎	
	まつおか 松岡 りょう 亮	Origin of Phobos and Deimos: Gas-drag capture of temporary captured bodies (PhobosとDeimosの起源：一時捕獲天体のガス抵抗による捕獲) 主査：教授 倉本 圭	
	むらし 村橋 くりき 究理基	高解像度火星大気LESから得られた流れ場と地表面応力分布 主査：教授 石渡 正樹	
	チョウ シュアンニユ 周 炫宇	Anatomy, Systematics and Paleopathology of Pterosaurs: insights based on new specimens from China (翼竜類の解剖学・系統分類学・古病理学：中国産新標本に基づく洞察) 主査：教授 小林 快次	
	なかもと 中元 けいすけ 啓輔	Fault Slip Behaviors in Plate Subduction Zones inferred from the Nano-scale Pore Structure of Fault Rocks (断層岩のナノスケール間隙構造からみるプレート沈み込み帯の断層すべり挙動) 主査：准教授 亀田 純	
博士（農学）	いけがみ 池上 だいち 大地	北海道の農村地域における地域活動の継続要因 主査：教授 井上 京	
	なかむら 中村 りょうた 亮太	ネパールにおける農村家計の脆弱性と栄養不良に関する計量経済学的研究 主査：教授 近藤 巧	
	バリン ボニヤ Balimponya エリアス ジョージ Elias George	Development of genetic management methods for rice varieties and prediction of spontaneous mutation frequencies using next-generation sequencing technology (次世代シーケンシング技術を用いたイネ品種の遺伝的管理法の開発と自然突然変異の発生頻度の予測) 主査：教授 貴島 祐治	
	ユアン ヨン ヘン Yuan Yongheng	Route exploration of valorization of buckwheat waste based on subcritical liquid treatment (亜臨界液体処理によるソバ廃材の付加価値化方法に関する検討) 主査：准教授 清水 直人	
	リ ファキンウェイ LI Faqinwei	Effect of digestate application replacement to chemical fertilizer on the growth, quality and salt stress resistance of vegetables (消化液の化学肥料の代替が野菜の成長、品質および塩ストレス耐性に及ぼす影響に関する研究) 主査：准教授 清水 直人	
	ジョ ム リン Xu Menglin	Validation of landscape planning framework based on an assessment of ecological resistance and ecological risk (生態学的抵抗力と生態学的リスクの評価に基づく景観計画手法の検証) 主査：准教授 愛甲 哲也	
やまだ 山田 たいへい 太平	Elucidating the distribution of potential spawning habitat and determinants of productivity for anadromous salmonids (遡河性サケ科魚類の産卵適地推定および再生産効率規定要因の解明) 主査：教授 中村 太士		

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者		博士論文名
	氏名		
博士（生命科学）	すぎやま あおい 杉山 葵		Study on the molecular basis of rabies virus P-protein targeting inhibition of the human JAK-STAT pathway (狂犬病ウイルスP蛋白質がヒトJAK-STAT経路を阻害する分子機構の解明) 主査：教授 尾瀬 農之
	モンタルバン MONTALBAN ビヤリアン ムリジョ Bryan Murillo		Anionic Glycan Diversity in Waterfowl Egg Whites through Glycoblotting-based Sulphoglycomics Approach (グライコブロットイング連動型スルフォグライコムクス法による水鳥卵白中のアニオン性糖鎖多様性に関する研究) 主査：教授 比能 洋
博士（薬科学）	ホウエン ロンタオ 黄 竜タオ		Enantioselective C-H Functionalization using Chiral Carboxylic Acid and d6 Transition Metal Complexes (キラルカルボン酸とd6型遷移金属錯体を用いたエナンチオ選択的C-H官能基化) 主査：准教授 吉野 達彦
博士（ソフトマター科学）	ジュン シャオ ZHENG Xiao		Clarification for Molecular Structure-Physical Property Correlation of Alkyl- π Functional Molecular Liquids (アルキル- π 機能性分子液体の分子構造-物性相関の解明) 主査：客員教授 中西 尚志
	ソン スハオ 宋 子豪		Application of Benchtop NMR for Metabolomics Study Using Feces of Mice with DSS-Induced Colitis (卓上NMRを用いたDSS誘発大腸炎モデルマウスのメタボロミクス研究) 主査：教授 相沢 智康
	ワン イ 王 一		Antimicrobial Properties and Mode of Action of Cryptdin-4, a Mouse α -Defensin Regulated by Peptide Redox Structures and Bacterial Cultivation Conditions (マウス由来 α ディフェンシンCryptdin-4の酸化還元型構造と好気嫌気培養により制御される抗菌活性とメカニズム) 主査：教授 相沢 智康
博士（観光学）	あおき ようこう 青木 洋高		フードツーリズムにおける物語経験に関する研究—ダイアローグに着目したナラティブ・アプローチによる考察— 主査：教授 西川 克之
博士（国際広報メディア）	コウ カギ 高 嘉儀		Understanding How Media Exposure Influences Old Adults Travelers' Perceived Risk and Travel Intention During the COVID-19 Pandemic (COVID-19パンデミック時のメディア報道が高齢者旅行者のリスク認知と旅行意図に与える影響についての考察) 主査：准教授 張 ジュヒョク
	しおうめ ひろゆき 塩梅 弘之		Effects of Interdependence Frame and Affective Entertainment Experience in the Context of Parasports on Attitudes toward People with Disabilities (パラスポーツにおける共生フレームとエンターテインメントの感情経験が障害者に対する態度に及ぼす効果) 主査：准教授 張 ジュヒョク
	めのかわ まさこ 布川 雅子		一人称研究から考察するNFT市場における新たな芸術的価値 主査：准教授 藤野 陽平
博士（工学）	セツ コウカク XUE Gaoge		Initiation and propagation processes of internal fatigue cracks in beta titanium alloys (ベータチタン合金における内部疲労き裂の発生・進展過程) 主査：特任教授 中村 孝
	ロ ホウ LU Bang		Elucidation of Structure-Activity Relationship in Heterogeneous Catalysis by <i>in situ/operando</i> Surface Science Techniques (<i>in situ/operando</i> 表面科学手法による不均一触媒構造活性相関の解明) 主査：教授 朝倉 清高
	ウー ジュユアン WU Zhuyuan		Formation of Cyclic Steps by Water on Ice Surface (氷表面上に流れる水によるサイクリックステップの形成) 主査：教授 泉 典洋

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者		博 士 論 文 名
	氏 名		
博士（工学）	おおや ゆうた 大屋 祐太		総観ならびに対流スケールにおける線状降水帯の出現特性に関する研究 主査：教授 山田 朋人
	ダイアン パシス Dianne Pacis アンチェタ Ancheta		The relationship of social vulnerability and COVID-19 and its impacts on travel behavior and expenditure activities of commuters in Metro Manila, Philippines (社会的脆弱性とCOVID-19との関係性がマニラ在住の通勤者の交通行動と消費活動へ与える影響) 主査：教授 内田 賢悦
	ナアル サウム Narith Saum		Integrating Machine Learning and Optimization Techniques for Short-Term Management of Shared E-Scooters under Demand Uncertainty (機械学習と最適化技術の統合による需要不確実性下でのshared e-scooterの短期オペレーション) 主査：准教授 杉浦 聡志
	こんどう あきひろ 近藤 明洋		鉛入り積層ゴムの熱・力学的連成挙動を考慮した免震建築物の応答評価に関する研究 主査：教授 菊地 優
	ダス DAS マハパトラー MAHAPATRA ゴウラブ Gaurab		Assessing the Accessibility of Footpaths at the Core of Old Indian Cities: The Universal Mobility Perspective (インド古都における歩道のアクセシビリティ評価に基づくユニバーサル・モビリティに関する研究) 主査：教授 森 傑
	アマグ アマグ Amagu Amagu クレメント Clement		Field Measurement and Numerical Analysis of Long-term Deformation of Rock Slope at Higashi-shikagoe Limestone Quarry, Japan (東鹿越鉱山における岩盤斜面の長期変位計測と数値解析) 主査：准教授 児玉 淳一
	ギェウ ゴウハク NIU Xiaobo		Evaluation of metakaolin-based geopolymer for the treatment of simulant radionuclides: Analysis of surface chemistry and immobilisation behaviour (模擬放射性核種処理におけるメタカオリン系ジオポリマーの評価: 表面化学と取り込み挙動の分析) 主査：准教授 エラクネス ヨガラジャ
	ソロ アペテ SORO APETE トゥイヤロ TUIYARO		Potential impacts of mining in Fiji on the surrounding environment: Toward sustainable mining management (フィジー国鉱山周辺環境への影響ポテンシャル: 持続可能な鉱山管理に向けて) 主査：准教授 原田 周作
	ハオ シンチュアン HAO Xinguan		Exploring factors influencing the formation and stability of crude oil emulsion (原油エマルジョンの形成および安定性に影響を与える要因に関する研究) 主査：准教授 エラクネス ヨガラジャ
アンジュ ピラッカ Anju Pilakka ヴィードゥ Veedu		Functional modification of mussel adhesive proteins for environmental applications (イガイ接着タンパク質の機能改変と環境分野への応用) 主査：准教授 中島 一紀	
博士（総合化学）	シュ スイケツ 朱 瑞傑		Suppressing Dendrites Growth of Zinc Metal Anodes by Modulating Electrode-Electrolyte Interfaces for the Development of High-Performance Zinc-ion Batteries (高性能亜鉛イオン電池開発のための電極-電解質界面制御による亜鉛金属負極の dendrite 成長の抑制) 主査：教授 忠永 清治
	アブドル ハリム Abdul Halim ブーヤン Bhuiyan		Study on Single Cell Raman Analysis to Enhance Differentiability of Cell Types in Non-homogeneous Environments (不均一環境下における細胞識別性向上に関する1細胞ラマン解析研究) 主査：教授 武次 徹也
博士（理学）	ウー 哲豪 ウー 哲豪		Development of Photocured Liquid-Crystalline Electrolytes with Ion-Transport Pathways and their Application to Electroactive Actuators (イオン輸送パスを有する光硬化液晶電解質の開発と電気活性アクチュエータへの応用) 主査：教授 澤村 正也

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者	博 士 論 文 名
	氏 名	
博士 (理学)	なかほら ゆういち 中原 祐一	Advanced Control of Reaction Selectivity via High-speed Micromixing Flow Processes: A Breakthrough Approach to Protein Functionalization (マイクロフロー高速混合プロセスによる反応選択性制御: タンパク質の高機能化に向けた検討) 主査: 教授 澤村 正也
	ふかや みつゆり 深谷 充功	酸化酵素による天然物の構造多様性創出機構に関する研究: ポリケタイドおよびテルペノイド生合成における特異な反応機構の解析 主査: 教授 永木 愛一郎
	メジリエムナ MEJRI EMNA	Functionalization of Carbon-Carbon Multiple Bonds by High Oxidation State Chemical Species (高酸化度化学種を利用した炭素-炭素不飽和結合の修飾) 主査: 教授 永木 愛一郎
	ホロダン 羅 丹	Study of Extracellular Electron Transfer in Bio-corrosive Bacteria for Electrochemical Sensor Application (電気化学センサー応用に向けた腐食性細菌の細胞外電子移動に関する研究) 主査: 教授 村越 敬
博士 (工学)	おおやま なつき 大山 夏生	Development of Synthetic Methods for Fluorinated Compounds Using Organoboron Compounds (有機ホウ素化合物を用いた含フッ素有機化合物の合成) 主査: 教授 大熊 毅
	ショウ エンロ 肖 宛璐	A Novel Epimerase Catalyzing Multiple Isomerization of Amino Acid Residues of Ribosomal Peptide (リボソームペプチドの複数アミノ酸残基を異性化する新規エピメラーゼ) 主査: 教授 松本 謙一郎
	ファン ティ PHAN THI ヒエン HIEN	Expanding Substrate Scope of Sequence-regulating Polyhydroxyalkanoate Synthase for Block Copolymer Synthesis (配列制御型ポリヒドロキシアルカン酸合成酵素の基質範囲を拡大しブロック共重合体を合成する) 主査: 教授 佐藤 敏文
	マ ジャミン 馬 嘉敏	Development of Highly Efficient Catalysts for Acetylene Semi-hydrogenation Based on Multinary Non-Noble Alloys (アセチレン部分水素化に有効な卑金属多元合金触媒の開発) 主査: 教授 菊地 隆司
博士 (医学)	かじはら ナビール 梶原 ナビール	抗腫瘍免疫の誘導を目指した治療および再発予防研究 (Studies on cancer therapy and recurrence prevention aimed at inducing anti-tumor immunity) 主査: 教授 伊藤 陽一
	かたば み けんいち 方波見 謙一	気道内異物による窒息が原因の心停止におけるリスク要因および気道確保の影響に関する包括的研究 (A Comprehensive Study on Risk Factors and the Effects of Advanced Airway Management in Cardiac Arrest Caused by Asphyxia due to Foreign Body Airway Obstruction) 主査: 教授 的場 光太郎
	ささき まちこ 佐々木 真知子	重症喘息の病態と臨床経過に関する多角的な研究 (Multifaceted research on the pathophysiology and clinical course of severe asthma) 主査: 教授 南須原 康行
	さとう みちこ 佐藤 理子	Apoptosis inhibitor of macrophage (AIM)/CD5Lの慢性閉塞性肺疾患における役割に関する研究 (Studies on the role of Apoptosis inhibitor of macrophage (AIM)/CD5L in the pathogenesis of chronic obstructive pulmonary disease) 主査: 教授 小林 弘一
	せんじょう はじめ 千丈 創	カルシニューリン阻害薬はドナーT細胞疲弊抑制を介して免疫寛容導入を阻害する (Calcineurin inhibitors inhibit tolerance induction by suppressing terminal differentiation of donor exhausted T cells after allogeneic stem cell transplantation) 主査: 教授 清野 研一郎

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者	博 士 論 文 名
	氏 名	
博士 (医学)	つじ こうすけ 辻 康介	非小細胞肺癌における非相同末端結合阻害によるパクリタキセル耐性克服に関する研究 (Studies on overcoming paclitaxel resistance by inhibition of non-homologous end joining in non-small cell lung cancer) 主査：教授 松野 吉宏
	まつだ そういちろう 松田 宗一郎	ボノプラザン隔日投与による逆流性食道炎維持療法の有効性に関する研究 多施設共同医師主導前向きランダム化クロスオーバー試験 (A Study for Every Second day Administration of Vonoprazan for Maintenance Treatment of Erosive GERD: A Multicenter Randomized Cross-over Study) 主査：教授 平野 聡
	みずがき あすみ 水柿 明日美	外傷後敗血症病態に関与する好中球フェノタイプの研究 (Neutrophil phenotype implicated in the pathophysiology of post-traumatic sepsis) 主査：准教授 外丸 詩野
	さとう おさむ 佐藤 理	CEAを標的抗原とするキメラ抗原受容体T細胞による膵臓癌への抗腫瘍効果の研究 (Studies on the therapeutic effect of CEA targeting chimeric antigen receptor engineered T cells for pancreatic adenocarcinoma) 主査：教授 坂本 直哉
	みずぬま けんいち 水沼 謙一	膵頭十二指腸切除術のトレーニングプログラムの開発に向けた膵空腸吻合の技能評価システムの構築 (Development of skill evaluation system for pancreaticojejunostomy toward the training program for pancreatoduodenectomy) 主査：教授 荒戸 照世
博士 (歯学)	いまだ るい 今田 瑠偉	連結強度の違いが部分床義歯ならびに欠損隣接歯の長期予後に与える影響の検討 主査：教授 横山 敦郎
博士 (獣医学)	すだ すがわら めい 須田(菅原) 芽伊	Study on the clinical outcome and molecular changes of precursor-targeted immune-mediated anemia treated with splenectomy (Precursor-targeted immune-mediated anemia (PIMA) に対する脾臓摘出術の臨床的有用性および分子生物学的変化に関する研究) 主査：教授 稲葉 睦
	テオ ヤン ビン TEOH Yong Bin	The Association of Thyroglobulin Single Nucleotide Polymorphism with Miniature Dachshunds-Specific Inflammatory Colorectal Polyps and its Involvement in Interleukin-6 Amplifier Induced Chronic Inflammation (ミニチュアダックスフンドに特異的な炎症性結直腸ポリープに関連するサイログロブリンの一塩基多型とインターロイキン6増幅回路に誘導される慢性炎症への関与) 主査：教授 木村 享史
博士 (医理工学)	みやた けんと 宮田 賢人	波高積分電荷比を用いた3次元シンチレータ発光位置弁別システムの開発 Development of a data acquisition system for 3-dimensional position detection of scintillation using a Peak-to-Charge discrimination method 主査：教授 石川 正純
博士 (感染症学)	ハンダビレ HANDABLE チムカ Chimuka	Exploring the usage of inactivated whole virus particle vaccines for influenza and COVID-19 (インフルエンザおよびCOVID-19不活化ウイルス全粒子ワクチンにより誘導される免疫効果の検討) 主査：教授 澤 洋文
	ロクパティラゲ LOKUPATHIRAGE スイトゥミニ Sithumini マドゥバシニ Madubashini ウィマラスリ Wimalasiri	Subcellular localization of nucleocapsid protein of severe fever with thrombocytopenia syndrome virus (SFTSV) and characterization of quasi-species of SFTSV (重症熱性血小板減少症候群ウイルス (SFTSV) の核蛋白の細胞内局在およびSFTSVの多様性の解析) 主査：教授 莉和 宏明
博士 (人間科学)	なていし わかほ 館石 和香葉	集団を越えた協力に関する実証的・理論的検討 主査：教授 高橋 伸幸

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者		博士論文名
	氏名		
博士（文学）	ステファニー ミドリ Stephanie Midori コマシン Komasin		The Thought of Kingo Miyabe, Kanzo Uchimura, and Inazo Nitobe: Independence, Tolerance, Nature, Health, and Views of Women in Japanese Christianity (宮部金吾、内村鑑三、新渡戸稲造の思想：日本のキリスト教における独立、寛容、自然、健康、女性観) 主査：特任教授 佐々木 啓
	かわむら たけし 川村 壮		日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震の津波災害リスクと港湾都市の開発に関する地理学的研究 主査：教授 橋本 雄一
博士（工学）	カン ショウウカ Kan Shaohua		Physical Computing Systems: Theory, Implementation and Functionality (物理計算システム：機能実現への理論と実践) 主査：教授 浅井 哲也
博士（情報科学）	オウ アン 王 安		A study on deep learning-based automatic defect detection for social infrastructure maintenance (社会インフラの維持管理支援のための深層学習に基づく自動変状検出に関する研究) 主査：教授 長谷山 美紀
	よねやま たけお 米山 拓応		電子ホログラフィを用いた接眼型立体表示装置および再生用光源の開発 主査：特任教授 坂本 雄児
	ドゥシャン Dusan ラディサヴリェッチ RADISAVLJEVIC		A Study on Machine Learning-based Approaches for Personality Identification and Translation (人格特性の識別と翻訳のための機械学習アプローチに関する研究) 主査：特任教授 荒木 健治
	リ コウ 李 広		A study on data-efficient learning and its medical applications (データエフィシエントラーニングとその医療応用に関する研究) 主査：教授 小川 貴弘
	リ ソンヨウ 李 宗曜		A Study on Practicality Improvement of Image Recognition Technologies by Mitigation of Label Dependence (ラベル依存緩和による画像認識技術の実用性向上に関する研究) 主査：教授 長谷山 美紀
	まきむら ひでとし 牧村 英俊		無線通信機器小型化のためのアンテナ小型化と実装技術に関する研究 主査：教授 五十嵐 一
	ほん ま 本間 亮平		高精度道路地図整備と舗装面維持管理のためのMMS点群からの道路情報ベクトルデータ抽出 主査：准教授 伊達 宏昭

論文博士

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者		博士論文名
	氏名		
博士（環境科学）	むらた ちなつ 村田 千夏		中空型金属酸化物クラスター内部に構築された特異なナノ空間の機能特性 主査：教授 小西 克明
博士（生命科学）	なかわら しゅんた 中村 駿太		The role of Paneth cell α -defensin as a regulator of the intestinal microbiota in nonalcoholic steatohepatitis (非アルコール性脂肪肝炎における腸内細菌叢の制御因子であるPaneth細胞 α -defensinの役割) 主査：教授 中村 公則
博士（薬科学）	かなだ りゅうたろう 金田 龍太郎		新規EP300/CBPアセチルトランスフェラーゼ阻害薬DS-9300の創製研究 主査：教授 市川 聡

レクリエーション

令和5年度学内教職員フットサル大会の開催

9月1日（金）～9月14日（木）にかけて学内教職員フットサル大会を第2体育館にて開催しました。各部局から多くのご参加をいただき、（部局合同チームを含めて）15チームによる熱戦が繰り広げられました。

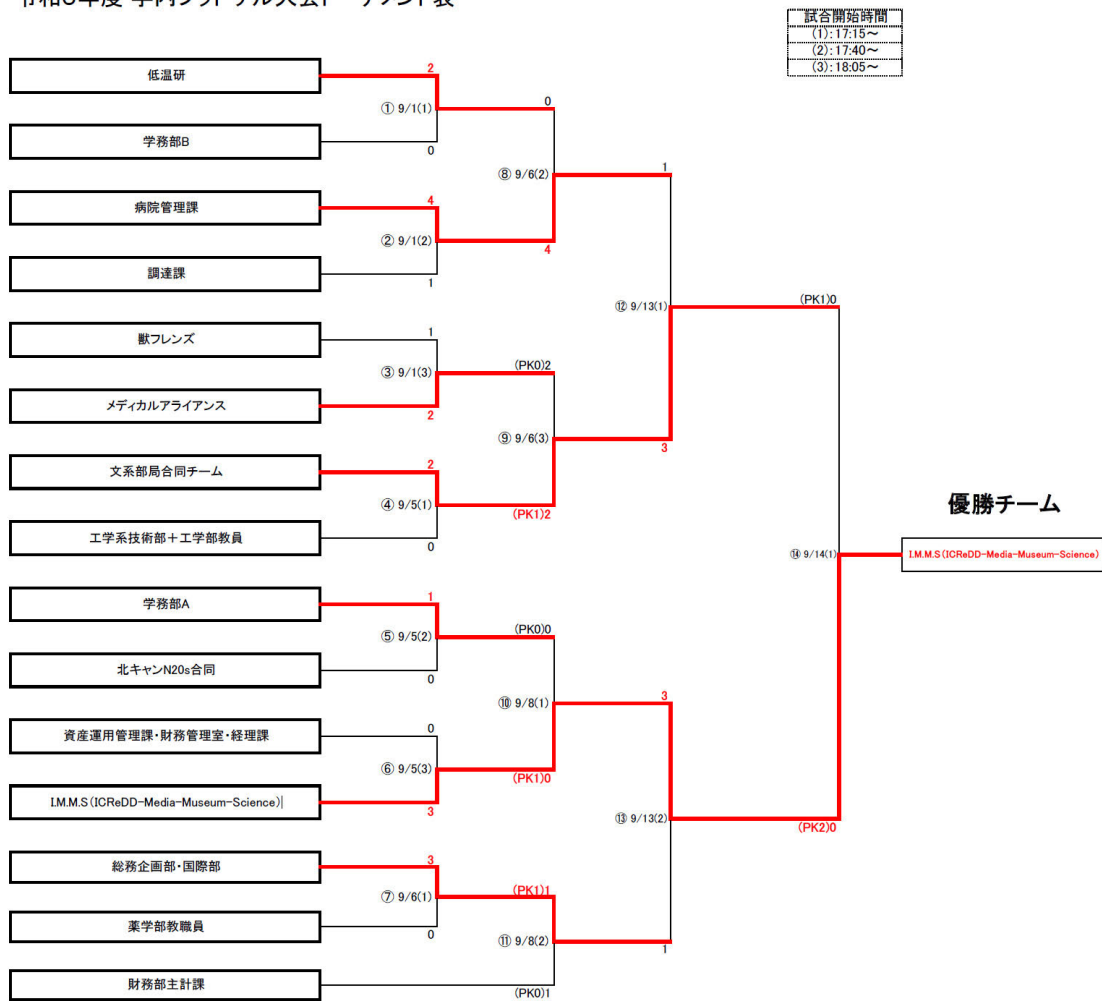
決勝戦では、I.M.M.S（ICReDD-Media-Museum-Science）が文系部局合同チームに勝利し、優勝を飾っています。対戦結果は下記のとおりです。

また、教職員サッカークラブは入部・見学を随時受け付けています。興味のある方は、お近くの部員、もしくはホームページの問い合わせ先までご連絡ください。

◆北大教職員サッカークラブHP：<http://hokudaikyousyokuinsec.web.fc2.com/>

（教職員サッカークラブ）

令和5年度 学内フットサル大会トーナメント表



優勝したI.M.M.S (ICReDD-Media-Museum-Science)



準優勝した文系部局合同チーム

■ 研修

令和5年度北海道地区国立大学法人等中堅職員研修

開催日：令和5年8月30日（水）～9月1日（金）

開催方式：北海道大学百年記念会館大会議室

研修目的：北海道地区国立大学法人等の中堅職員としての立場と責務を自覚させるとともに、職務に対する知識を深め、企画力及び問題解決能力の向上を図ることを目的とする。

主催部局：総務企画部人事課



開講式挨拶・特別講話（行松泰弘理事）



講義・実習（特定非営利活動法人手と手）



講義・グループワーク（株式会社フォーブレン）

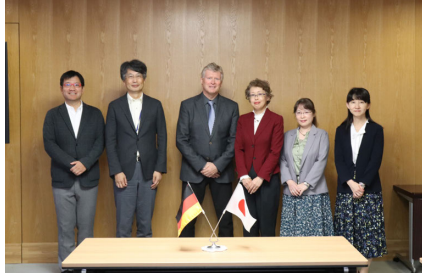


先輩講話（長谷川康弘副理事）

■表敬訪問

海外

年月日	来訪者	来訪目的
5.9.26	ブレーメン大学（ドイツ連邦共和国） Wilhelm Hagen 教授	今後の交流に関する懇談
5.9.28	釜慶大学校（大韓民国） 張 瑛秀 総長	今後の交流に関する懇談



Wilhelm Hagen ブレーメン大学教授（左から3人目）



張 瑛秀 釜慶大学校総長（左から3人目）

（国際部国際連携課）

■人事

令和5年9月15日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【教授】 (転出) 京都大学教授	岩 下 武 史	情報基盤センター教授

令和5年9月30日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【教授】 (任期満了) (辞職)	赤 井 恵 木 村 宏	大学院情報科学研究院教授 観光学高等研究センター教授

令和5年10月1日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【役員】 副学長 (期間：令和6年3月31日まで)	清 水 聖 幸	半導体拠点形成推進本部教授 (熊本大学副学長)
【部局長・施設長等】 大学院地球環境科学研究院長 大学院環境科学院長 (期間：令和7年9月30日まで) One Healthリサーチセンター長 (期間：令和7年3月31日まで) 半導体拠点形成推進本部長 (期間：令和6年3月31日まで) 電子科学研究所附属グリーンナノテクノロジー研究センター長 (期間：令和7年9月30日まで)	谷 本 陽 一 堀 内 基 広 山 口 淳 二 松 尾 保 孝	大学院地球環境科学研究院教授 大学院獣医学研究院教授 理事 電子科学研究所附属グリーンナノテクノロジー研究センター教授
【副研究科長・副研究院長等】 大学院地球環境科学研究院副研究院長 (期間：令和7年9月30日まで)	小 西 克 明	大学院地球環境科学研究院教授
【教授】 大学院法学研究科教授 大学院水産科学研究院教授 大学院工学研究院教授 人獣共通感染症国際共同研究所教授 One Healthリサーチセンター教授 半導体拠点形成推進本部教授	牧 佐智代 東 藤 孝 長 井 宏 平 山 岸 潤 也 池 中 良 徳 清 水 聖 幸	(採用) 大学院水産科学研究院准教授 東京大学准教授 人獣共通感染症国際共同研究所准教授 大学院獣医学研究院附属動物病院教授 熊本大学教授(熊本大学を本籍機関としてクロスアポイントメント適用)

新任副学長紹介

令和5年10月1日付



副学長に

しみず きよゆき
清水 聖幸 氏

清水聖幸教授は、令和5年10月1日付で副学長に発令されました。

任期は、令和6年3月31日までです。

担当

半導体関連拠点

略歴

生年月日 昭和38年10月生
平成 4年 4月 通商産業省工業技術院資源環境技術総合研究所技官
平成 8年10月 通商産業省工業技術院資源環境技術総合研究所主任研究官
平成11年 3月 南カリフォルニア大学派遣（科学技術庁長期在外研究員）
平成12年 4月 通商産業省工業技術院産業技術総合研究所設立
準備本部調査官及び総務部人事課調査官
平成13年 1月 内閣府総合科学技術会議事務局参事官補佐
平成15年 5月 経済産業省産業技術環境局研究開発課研究開発企画調査官
平成17年 8月 資源エネルギー庁新エネルギー対策課総合技術調査官
平成18年 8月 岐阜県庁総合企画部研究開発総括監
平成22年 4月 産業技術総合研究所産学官連携推進部門地域連携室長
平成24年 4月 産業技術総合研究所イノベーション推進本部産学官連携推進部部長
平成27年 4月 産業技術総合研究所中部センター所長代理
平成30年10月 熊本大学副学長及び熊本創成推進機構副機構長・教授
令和 5年10月 北海道大学副学長及び半導体拠点形成推進本部副本部長・教授
（熊本大学とのクロスアポイントメント）

役員等紹介 ※令和5年10月1日に設置した運営組織における就任状況を記載しています。

令和5年10月1日付

半導体拠点形成推進本部長に

やまぐち じゅんじ
山口 淳二 氏

山口淳二氏は、令和5年10月1日付で半導体拠点形成推進本部長に就任されました。

任期は令和6年3月31日までです。

新任部局長等紹介

令和5年10月1日付

One Healthリサーチセンター長に



ほりうち もとひろ
堀内 基広 教授

令和5年10月1日でOne Healthリサーチセンター長に堀内基広教授が発令されました。

任期は、令和7年3月31日までです。

略 歴

生年月日 昭和39年2月26日
 昭和61年 3月 北海道大学獣医学部卒業
 昭和63年 3月 北海道大学大学院獣医学研究科修士課程修了
 昭和63年 4月 } 民間（日本ロシュ株式会社）
 昭和63年12月 }
 昭和64年 1月 帯広畜産大学畜産学部助手
 平成 6年 6月 博士（獣医学）（北海道大学）
 平成 7年 6月 帯広畜産大学原虫病分子免疫研究センター助教授
 平成 7年 6月 岐阜大学大学院連合獣医学研究科助教授
 平成 9年 7月 } 米国国立衛生研究所ロッキーマウンテン研究所訪問研究員
 平成11年 7月 }
 平成12年 4月 帯広畜産大学原虫病研究センター助教授
 平成15年 8月 北海道大学大学院獣医学研究科教授
 平成25年 4月 } 北海道大学役員補佐
 平成26年 3月 }
 平成26年 4月 } 北海道大学総長補佐
 平成27年 3月 }
 平成26年 7月 } 北海道大学国際連携研究教育局教授
 令和 2年 3月 }
 平成27年 4月 } 北海道大学高等教育推進機構教授
 平成28年 3月 }
 平成29年 4月 } 北海道大学大学院獣医学研究院長・獣医学部長
 令和 3年 3月 }
 令和 3年 4月～北海道大学大学院国際感染症学院長
 令和 5年10月～One Healthリサーチセンター長

部局長等（再任）紹介

令和5年10月1日付

地球環境科学研究院長・環境科学院長に

たにもと よういち
谷本 陽一 教授

谷本陽一教授は、令和3年10月1日から地球環境科学研究院長・環境科学院長を務め、令和5年9月30日をもって任期満了となりましたが、引き続き同教授が再任されました。

任期は、令和7年9月30日までです。

新任教授紹介

令和5年10月1日付

法学研究科教授に

まき さちよ 氏
牧 佐智代 氏

法学政治学専攻現代法講座

最終学歴

神戸大学大学院法学研究科博士後期課程単位取得退学（平成21年3月）
修士（法学）（九州大学）

専門分野

民法、消費者法



水産科学研究院教授に

とうとう たかし 氏
東藤 孝 氏海洋応用生命科学部門
増殖生物学分野

生年月日

昭和41年11月23日

最終学歴

北海道大学大学院水産学研究科博士後期課程単位修得退学（平成7年3月）
博士（水産学）（北海道大学）

専門分野

生殖生理学



工学研究院教授に

ながい こうへい 氏
長井 宏平 氏土木工学部門
社会基盤マネジメント分野

生年月日

昭和52年3月25日

最終学歴

北海道大学大学院工学研究科博士後期課程修了（平成17年3月）
博士（工学）（北海道大学）

専門分野

成熟社会インフラ学

人獣共通感染症
国際共同研究所教授にやまぎし じゅんや 氏
山岸 潤也 氏

国際協力・教育部門

生年月日

昭和48年7月23日

最終学歴

北海道大学大学院農学研究科博士課程修了（平成14年3月）
博士（農学）（北海道大学）

専門分野

病原体ゲノム学

訃報

名誉教授 小沼 操 氏
(享年80歳)



名誉教授 小沼 操 先生が、令和5年9月9日にご逝去されました。

小沼先生は昭和19年に長野県に生まれ、昭和44年北海道大学獣医学部獣医学科を卒業後、同年北海道大学大学院獣医学研究科予防治療学専攻修士課程に入学し、昭和46年同専攻修士課程を修了後、札幌医科大学医学部助手に採

用されました。札幌医科大学では鶏のウイルス性腫瘍疾患であるマレック病を研究し、昭和49年に学位論文「マレック氏病ウイルス及び七面鳥ヘルペスウイルス感染細胞に出現する共通抗原に関する研究」により北海道大学から獣医学博士の学位を授与されました。同年から米国ウイソコンシン大学獣医学研究科研究員、昭和51年に北海道大学獣医学部助手、昭和59年に酪農学園大学獣医学部助教授を務めた後、平成元年に北海道大学獣医学部教授に任じられました。

学内においては、数多くの学生を指導されるとともに、学外においては、日本ウイルス学会、日本獣医学会の理事、動物サイトカイン研究会、動物用ワクチン・バイオ医薬品研究会の会長などを歴任され学術の発展に大いに貢献されました。また国際協力事業団

(JICA)、科学技術国際交流センター、日本獣医師会の委員として途上国における獣医師育成や畜産業発展のための国際貢献に尽力されました。

学術研究面では、動物の難治性疾病の研究に従事され、とりわけタイレリア原虫、牛白血病ウイルス、マレック病ウイルスなどの細胞内寄生病原体を対象に病態解明とワクチンによる制御に関する研究を展開して、大いに発展させ、昭和55年日本獣医学会賞、平成18年畜産技術協会研究開発奨励賞、平成21年日本獣医学会・越智賞を受賞されました。

ここに謹んで小沼 操先生の学術研究発展と人材育成への貢献に感謝し、心よりご冥福をお祈り申し上げます。

(獣医学研究院・獣医学院・獣医学部)

編集メモ

- 9月28日（木）、札幌キャンパスにワイン教育研究の拠点としてワイン教育研究センターが開設されました。本学で最も歴史ある建造物である「旧昆虫学及養蚕学教室」と、「昆虫学標本室」が改修され、それぞれ「センター

棟」と「ワイン庫」へと生まれ変わりました。センター棟には研究室が、ワイン庫にはワインセラーが設置され、教育研究へ活用されます。今後の本学のワイン教育研究の動向にもご注目ください。



センター棟の様子



ワイン庫の様子

裏表紙メモ

10月のキャンパス風景は、札幌農学校第二農場です。札幌農学校第二農場は明治時代に、当時のアメリカ中西部の様式に習い、北海道の風土に合った近代的大規模有畜農業を取り入れる拠点として建てられ、北海道農法の構築に貢献しました。今では日本最大の生産地となった北海道ですが、その礎を築いた拠点の一つと言えます。先人たちに感謝しながら、‘実りの秋’を楽しみたいですね。

キャンパス風景 43 札幌農学校第二農場（北18条西8丁目）



北大時報 ⑩ No.835 令和5年10月発行

北海道大学社会共創部広報課 〒060-0808 札幌市北区北8条西5丁目

TEL : (011) 706-2610 / FAX : (011) 706-2092 / E-mail : kouhou@jimuhokudai.ac.jp

<https://www.hokudai.ac.jp/pr/publications/jihou.html>